

SYLLABUS 2017

授業計画

愛知教育大学大学院・静岡大学大学院

教育学研究科 教育実践高度化専攻

授業科目名	目指すべき学力とその評価				
担当教員名	村山 功		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部L棟205	
分担教員名	長崎 栄三、石上 靖芳、山城 拓也				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	学習指導要領、PISA、全国学力・学習状況調査、資質・能力				
授業の目標	PISA及び全国学力・学習状況調査における学力観と評価方法を知る 調査結果を活用して、学校の現状を把握し改善する方法を学ぶ 教科で学ぶ内容の基準について理解する				
学習内容	PISAや全国学力・学習状況調査の背景となる学力観やテスト問題の考察を通して、目指すべき学力とその評価方法について学ぶ。また、それに基づいて従来の学力観や評価に対する批判的検討を行い、学校改善の方向性を考察する。				
授業計画	【前半】 1. ガイダンス 2. 学習指導要領の概説、PISA調査 3. 現行学習指導要領と全国学力・学習状況調査 4. つけるべき学力をつける授業 5. 次期学習指導要領の概要 6. 課題駆動型校内研修 7. 学力を考える手がかり：知識の手続きと構造化 8. 学力を考える手がかり：人間にとってのカテゴリー 【後半】（集中） 9-16. 教科で何を教えるか（グループワークを含む）				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントをとること				
担当教員からのメッセージ	学力論や評価論の内容はもちろんのこと、それらを支えている統計的手法についても、「簡単に」紹介します。				

授業科目名	授業と学習のメカニズム				
担当教員名	石上 靖芳		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟408	
分担教員名	河崎 美保、山城 拓也、益川 弘如				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	<p>児童生徒の知識技能の獲得の特徴を理解する。 児童生徒が主体的に学びを深めるための授業の条件を理解する。 児童生徒の学習活動をメカニズムに基づいて観察評価できるようになる。</p>				
学習内容	<p>効果的な授業方法を裏付ける人間の学習メカニズムについて、とくに知識や技能の獲得という認知面と、動機付けや意欲といった情動面について、複数の文献資料をグループワーク主体で読んで議論し、授業場面と対応付けて統合させながら体系的に学習する。また「授業形態の特質と選択」「目指すべき学力とその評価」と連動させながら、効果的な授業の在り方とそれを支える授業・学習のメカニズムとの対応関係を考え、知見を用いて、授業における児童生徒の具体的な学習行動を分析するとともに、授業改善の方法について考える。</p> <p>【実習との連携】</p> <p>1) 基盤実習（訪問型）における連携協力校訪問の事前検討を本授業のグループワークとして行う。具体的には、協力校から事前に送られてきた授業案を、本授業の学習内容を活用して分析・検討する。また実習観察の結果を元に、本授業の学習内容を活用して分析する。</p>				
授業計画	<p>【単元】学習のメカニズム(知識構成・理解深化・技能熟達・知識転移・動機付け)</p> <ol style="list-style-type: none"> 各領域の文献をグループで分担して整理し発表準備をする グループを組み替え担当文献を相互発表・領域間のつながりを議論する 各領域の特徴を踏まえ、授業観察に必要な観点を一覧表としてまとめる <p>【単元】授業案・学習メカニズムに基づく授業観察と評価1</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習のメカニズムの観点から授業案を検討する 訪問実習後、学習のメカニズムの観点から授業を評価、議論し、改善案をまとめる <p>【単元】授業のメカニズム（協調活動・目標設定・問題解決・学習環境と文脈）</p> <ol style="list-style-type: none"> 各領域の文献をグループで分担して整理し発表準備をする グループを組み替え担当文献を相互発表・領域間のつながりを議論する 学習のメカニズムと授業のメカニズムの対応関係、授業形態、目指すべき学力との対応関係を議論、整理する 授業と学習のメカニズムの特徴と観察分析方法を一覧表としてまとめる <p>【単元】授業案・授業、学習メカニズムに基づく授業観察と評価2</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業と学習のメカニズムの観点から授業案を検討し観察ポイントを決定する 訪問実習後、授業と学習のメカニズムの観点から授業を評価、議論し、改善案をまとめる <p>【単元】授業と学習のメカニズムに基づいた学習行動の分析</p> <ol style="list-style-type: none"> これまで「基盤実習」で観察してきた複数授業での児童生徒の学習活動を、授業・学習のメカニズムの特定の観点から一貫して分析する。そのための観点をグループごとに設定する ビデオ記録、観察記録等を用いて各グループの観定の視点で振り返り、分析手法を決定して分析する 分析結果をまとめ、文章化してレポート化すると共に、発表準備を行う 各グループの分析テーマ、手法に基づいた分析結果を相互発表し、評価しあう <p>【教員間の連携】</p> <p>主担当教員・分担教員が全回数を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。</p> <p><主担当教員></p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容の準備と解説を行うとともに、議論とグループワークの進行を担当する。(益川) <p><分担教員></p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる専門あるいは実務家の視点から、講義中の議論へ参加するとともに、グループワークの指導・支援を行う。(村山、石上) 				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する。また、協調学習支援システムを使用する。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントをとること				
担当教員からのメッセージ	<p>授業と学習のメカニズムを知ることは、効果的な授業がなぜ効果的なのか？を裏付けをとるためにも重要なことです。また、メカニズムを知ることで観察の視点も多様になります。教科の枠組みを超えて横断的に、授業の善し悪し、生徒児童の学習状況を把握することができるようになりましょう。</p>				

授業科目名	学校経営の実践と課題				
担当教員名	山口 久芳		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟410	
分担教員名	武井 敦史、山崎 保寿、三ツ谷 三善、渋谷 かさね、島田 桂吾				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	学校経営に関する理論と実践について基本的事項の獲得を図るとともに、応用・実践力を身に付ける。具体的には、実践を通して、ビジョンの形成過程やビジョンに基づいたPDCAのそれぞれの具体を分析考察し、今後の学校現場に生かす為のビジョン作成を行う。 また、今後教師にとってさらに必要となる社会的知性を鍛える。				
学習内容	(1) 教師の力量形成と専門性に対応した力量形成支援のあり方、(2) 学校の組織的特徴に基づいた組織化の方法、(3) リーダーの役割と思考のあり方について、事例及び実習校での観察記録に基づいて学習する。				
授業計画	0. オリエンテーション ①静岡の教育と「経営」 1 これからの学校 武井 ②教育委員会制度と教育行政の仕組み 島田 ③静岡県教育委員会事務局の組織と関係性 三ツ谷 2 「経営」と組織マネジメント 武井 ④「経営」とは何か ⑤学校の組織マネジメントの考え方 (1) 組織マネジメントとは ⑥学校の組織マネジメントの考え方 (2) SWOT分析と学校ビジョン展開シート 2 ビジョン形成とPDCAの具体を理解し、分析考察を行う。 ⑦弱みを強みに生かすビジョン (H 中学校の実践から) ⑧⑦の分析考察 (参考点・問題点 (課題)・活用点の3点で分析考察をグループで行う) 武井 ⑨体験的生徒指導論 (K 中学校の実践から) 山口 ⑩⑨の分析考察 (参考点・問題点 (課題)・活用点の3点で分析考察をグループで行う) 伊田 ⑪PDCA サイクルの具体 《上》 (G 中学校の実践から) 山口 ⑫⑪の分析考察 (参考点・問題点 (課題)・活用点の3点で分析考察をグループで行う) 島田 ⑬PDCAの具体《下》 (N 中学校の実践から) 山口 ⑭⑬の分析考察 (参考点・問題点 (課題)・活用点の3点で分析考察をグループで行う) 武井 3 授業総括 ⑮静岡の教育を考える 山口				
受講要件	なし				
テキスト	特になし				
参考書	授業の中で指示する				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上判定する。				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にメールにてアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	教育という営みや教師の仕事の特徴、教師の専門性に基づいた学校経営のあり方を踏まえつつ、組織としての能力を高められる力量を身につけましょう。				

授業科目名	学校と地域の協働				
担当教員名	渋江 かさね		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 104	
分担教員名	武井 敦史、山口 久芳、山崎 保寿、三ツ谷 三善、島田 桂吾				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	協働（連携・協力）、地域とともにある学校づくり、社会に開かれた教育課程、コーディネーター、社会教育、コミュニティスクール				
授業の目標	<p>■現職教員：地域と学校を結ぶコーディネーターとして成長する</p> <p>①「時代の変化に伴う学校と地域の在り方」について理解を深めます。</p> <p>②「学校を支援する地域の人・組織の学び」という視点を養うことをめざします。</p> <p>③「子どもを真ん中において」教員と地域のおとなが協働（連携・協力）していく際に必要な力量を身につけることをめざします。</p> <p>■ストレートマスター：授業などで地域と連携できる教員として成長する</p> <p>①学校と地域の協働（連携・協力）の実態を把握し、理解することをめざします。</p> <p>②「時代の変化に伴う学校と地域の在り方」について理解を深めます。</p> <p>③「児童・生徒につけさせたい力」との関連で、学校と地域の協働（連携・協力）の必要性を理解することをめざします。</p>				
学習内容	①学校と地域の協働の現状と課題、②子どもにつけさせたい力と学校と地域の協働の関係、③学校支援ボランティアのための研修、について講義とグループワークによって学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 時代の変化に伴う学校と地域の在り方① 3. 時代の変化に伴う学校と地域の在り方② 4. 時代の変化に伴う学校と地域の在り方③ 5. 地域と連携して取り組んだ実践を語り聴きあう① 6. 地域と連携して取り組んだ実践を語り聴きあう② 7. 地域と連携して取り組んだ実践を語り聴きあう③ 8. 「学校と地域の連携」の事例に学ぶ 9. 学校教育と社会教育① 10. 学校教育と社会教育② 11. 学校教育と社会教育③ 12. 学校支援ボランティアを対象とした研修のリデザイン① 13. 学校支援ボランティアを対象とした研修のリデザイン② 14. 学校支援ボランティアを対象とした研修のリデザイン③ 15. 授業のまとめ <p>※授業計画は受講者や学習の状況に応じて変わることもあります。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	中村香・三輪建二編著『生涯学習社会の展開』玉川大学出版部、2012年。				
参考書	授業の中で適宜紹介します。				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動への参加状況と都度作成のレポート内容を基に、S～Dで判定します				
オフィスアワー	メールでアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	子どもたちのために、学校と地域が協働すると何が生まれてくるのか、学校と地域の両者にとってうれしい協働の形はどのようなものかについて、みんなで一緒に考えましょう。そして、こうした体験を積み重ねる中で、学校と地域の協働に欠かせない、人と人、組織と組織をつなぐコーディネート力を養っていきましょう。				

授業科目名	学校の危機管理の実践と課題				
担当教員名	島田 桂吾		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部 A 棟 403	
分担教員名	三ツ谷 三善、渋江 かさね、武井 敦史、山崎 保寿、山口 久芳				
クラス	学校組織	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	教育法規、危機管理、学校経営				
授業の目標	学校の危機管理の課題解決に向けて、教育法規を意識しながら、高度な実践力と課題解決力を身に付ける。				
学習内容	<p>【テーマ】</p> <p>学校に生じている危機の実態とその対応について教育法規に基づいて考察するとともに、今後勤務校で生じうる危機について、学校保健安全の視点から、具体的な対応策を提起していく。</p> <p>グループ活動を取り入れた参加型の学習を行い、危機・危険の発見と対応力を身に付ける。そのために、危機管理の事例を分析する場面で、グループをまとめたりリーダーとして活動する力をつける。また、実習校の危機管理の特徴と課題を記述・説明できるようにし、危機管理課題に関するプレゼンテーションで、有効な課題解決方策を示したりできるようにする。</p> <p>なお、毎回授業の冒頭で「教育法規クイズ」を出題するため、テキストに挙げたものを持参すること。</p>				
授業計画	<p>【単元】危機管理対応の基礎—教育法規の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎的理解 2. 教育活動の法的根拠 3. 生徒指導に関する法令 4. 学校危機管理に関する法令と実態 <p>【単元】危機管理対応の検討—裁判例から考える対応策</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 裁判例（判例）の検討①—授業の危機管理 6. 裁判例（判例）の検討②—特別活動の危機管理 7. 裁判例（判例）の検討③—課外活動の危機管理 8. 裁判例（判例）の検討④—災害の危機管理 <p>【単元】危機管理対応の理論—「危機」の捉え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. リスクマネジメント（中村） 10. 学校保健に関わる危機管理①（鎌塚） 11. 学校保健に関わる危機管理②（鎌塚） 12. 組織マネジメント（武井） <p>【単元】危機管理対応の実践—まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 学校安全計画と学校事故防止の指針 14. これからの学校危機管理に向けて（ディスカッション） 15. 全体のふり返り（リフレクション） <p>【教員間の連携】</p> <p><主担当教員>島田桂吾</p> <p>1～15を分担で担当し、授業と実習との連携に配慮する。</p> <p><分担教員>武井敦史、鎌塚優子、中村美智太郎</p>				
受講要件	教職大学院1年生				
テキスト	『平成 29 年度 教育法規便覧』（学用書房） 『平成 29 年度 解説教育六法』（三省堂）				
参考書	坂東司朗・羽成守『学校事故判例ハンドブック』（青林書院）、2015 年 古笛恵子『学校事故の法律相談』（青林書院）、2016 年				
予習・復習について	事例に関する法的根拠を調べるなど。				
成績評価の方法・基準	授業中の活動、レポート、プレゼンテーションにより判断し、S～D で判定する。				
オフィスアワー	木曜日 5・6 限				
担当教員からのメッセージ	各学校の実情を踏まえた危機・危険への対処法を学び、危機管理の視点を踏まえた広い視野から同僚教師をリードする力量の育成を目指し、研究としてまとめる力量も重視します。				

授業科目名	新学習指導要領とカリキュラム経営				
担当教員名	山崎 保寿		所属等	学院教育領域	
			研究室	教育学部A棟413	
分担教員名	武井 敦史、山口 久芳、三ツ谷 三善、渋谷 かさね、島田 桂吾				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード					
授業の目標	カリキュラム経営の課題解決に向けて、「基盤実習」との往還をつくりながら、新学習指導要領の方向に添い、理論を踏まえた高度な実践力を身に付ける。必要に応じて統計的検証の方法を示すが、その場合、ノートパソコンを用意すること。				
学習内容	カリキュラム経営の理論的考察と事例の分析を中心に、新学習指導要領の動向を踏まえ、課題解決に向けてグループ活動を取り入れて学習する。そのために、カリキュラム経営の実践および新学習指導要領の内容を分析する場面で、グループをまとめたりリーダーとして活動する。また、実習校のカリキュラム・マネジメントの特徴と課題を記述・説明し、自己実践報告書を作成する。カリキュラム経営の課題解決に関するプレゼンテーションで、有効な課題解決策を示す。統計的方法について説明する場合もある。 【実習との連携】 授業の課題を連携協力校における「基盤実習」と関連させ、実習で行った体験・観察・インタビュー結果を本授業で振り返る。				
授業計画	<p>【単元】カリキュラム経営の実践と考察の視点、統計的方法を指導する場合は随時示す（以下同じ）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（自己実践の振り返りと視点の示唆） 2. 教育課程およびカリキュラム経営に関する基礎理解 3. 教育課程およびカリキュラム経営に関する自己実践の振り返り（兼任教員） 4. 自己実践の振り返りと研究的分析枠に関する示唆 5. カリキュラム経営に関する実践的研究の分析枠組み <p>【単元】新学習指導要領の理解（ディベートまたはパネルディスカッションを含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 新学習指導要領の理解およびカリキュラム経営の新しい方向 7. 新学習指導要領の分析に基づく実践的展望（兼任教員：杉山孝） 8. 新学習指導要領の分析から導かれる実践的課題 9. 新学習指導要領の分析に関する発表・討論 <p>【単元】カリキュラム経営の課題解決</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 新学習指導要領およびカリキュラム経営に関する行政施策の分析 11. カリキュラム経営に関する現状課題の分析とまとめ 12. カリキュラム経営に関する課題解決に向けた方策 13. カリキュラム経営に関する高度化対応研修教材の開発 14. カリキュラム経営に関する高度化対応研修教材の検討 15. 高度化対応研修教材の活用検討 <p>【教員間の連携】</p> <p><主担当教員>山崎保寿、研究者教員（講師） 1～15を分担で担当し、授業と実習との連携に配慮する。</p> <p><分担教員>実務家教員（教授）、研究者教員（講師） 7・15を担当する。実務家教員として、研究者教員と連携して授業に参加し、主に実習の振り返りを担当する。授業内容および担当の関係で、月56以外の時間や集中講義の時間等を活用する。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	総合教育技術『最新教育基本用語』小学館、2002年 山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房、2005年 山崎保寿編『教務主任の仕事術』教育開発研究所、2012年				
参考書	新学習指導要領に関する解説本				
予習・復習について	カリキュラム経営、新学習指導要領に関する文献を読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	火曜日 9・10限				
担当教員からのメッセージ	新学習指導要領について理解し、各学校の実情を踏まえたカリキュラムを編成・評価する力量を身につけるとともに、同僚教師をリードし、コーディネートする力量の育成を目指します。文献収集力、研究としてのまとめ力も重視します。				

授業科目名	授業形態の特質と選択				
担当教員名	石上 靖芳		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟408	
分担教員名	河崎 美保、山城 拓也				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な授業形態を知るとともに、ある授業形態における子どもの学習に関する事例分析を通して、授業形態の特質や選択の視点について考察することができる。 ・「外国につながりをもつ子ども」の教育に関する問題を例として、マイノリティの存在を踏まえた教育のあり方について考えを深めることができる。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉・小集団・個別、TT、習熟度別編成など授業形態は多様化しつつある。こうした授業形態は次第に普及してきたが、どのような授業形態を選択すればよいか試行錯誤が続いている。本科目では、様々な授業形態を知るとともに、基盤実習(訪問型)における研究授業と連動させ、ある授業形態における子どもの学習に関する観察記録をもとに授業形態の特質や選択の視点を考察する。 ・全国及び県内の現状把握を行ったうえで、外国人児童生徒等の日本語や教科学習、仲間づくり等の支援のあり方に関して事例研究を進める。外部よりゲストスピーカーも招いて、できるだけ現場に即した情報提供を行い、受講者間の議論を取り入れながら進めていく。 				
授業計画	<p>【小単元①】 授業形態の視点から授業をみる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.一斉・小集団・個別、TT、習熟度別編成など様々な授業形態を知る 2.基盤実習(訪問型)における研究授業の授業目標・内容と授業形態を検討する 3.そのような授業形態を選択した授業者の意図を考察する <p>【小単元②】 ある授業形態における事例分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 4.選択された授業形態における子どもの学習の様子を質的に理解する① 5.選択された授業形態における子どもの学習の様子を質的に理解する② 6.選択された授業形態の特質について実態を踏まえて考察する <p>【小単元③】 多様な授業分析を踏まえて</p> <ol style="list-style-type: none"> 7.多様な授業分析の交流から他の授業形態の選択による効果を検討する 8.多様な授業分析の交流から授業形態を適切に選択する視点を検討する 9.授業形態の特質と選択に関する総括 <p>【地域教育課題の分析と対応】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 受講者間の情報交換、外国人児童生徒等増加の社会的背景 11. 当該児童生徒を取り巻く教育課題 12. 子どもの第二言語習得と異文化適応 13. 受け入れ及び支援のあり方 14. 教員の役割と支援者との連携 15. マイノリティの存在を踏まえた教育のあり方 				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて指定または配布する				
参考書	『ニッポンには対話がない』北川達夫・平田オリザ(三省堂) 『国際理解教育』佐藤郡衛(明石書店)				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元②・③においては、観察記録(発話データ)の整理や分析、発表準備の時間が必要になる ・授業の前後に課題を出すことがある。 				
成績評価の方法・基準	授業中の活動状況やレポート内容等に基づいて、担当教員2名(長倉・矢崎)の合議の上判定する				
オフィスアワー	火曜日 9・10限 他(事前のメール連絡が望ましい)				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・(学習者や教員としてのこれまでの経験を踏まえつつも、それだけに固執しすぎずに、)本科目を通して、これまで形成してきた実践的知識への省察を深めることにより、さらなる認識の深化や飛躍を期待します(長倉) ・受講生の皆さんには、外国人等のマイノリティに対する教育を通して、学習者の背景をいかに理解し、個々に応じた教育を展開していくかについて考えていただければと思います(矢崎) 				

授業科目名	子どもの姿と生徒指導の今日的課題				
担当教員名	伊藤 公介		所属等	教育学研究科	
			研究室	教育学部A棟406	
分担教員名	原田 唯司、鈴木 秀志、伊田 勝憲				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木5・6
キーワード					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の現状と課題を実際の子どもの姿から見つけ、共有する。 ・子どもの行為とその心理を理解する。 ・生徒指導の今日的課題への対応力を身につける。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の今日的な課題を、様々な「入口」から検証していく。 ・検証の方法を工夫して、受講生が興味・関心を抱き、自らの問題としてとらえることができるよう配慮する。 ・ 				
授業計画	<p>第1回 ディスカッション「生徒指導の今日的な課題」 全員で話し合い</p> <p>第2回 自己肯定感 大学教員パネルディスカッション</p> <p>第3回 小1プロブレム 中1ギャップ M2生徒指導領域院生パネルディスカッション</p> <p>第4回 ゼロトレランスとカウンセリングマインド 大学教員講義とディスカッション</p> <p>第5回 学校の荒れ 大学教員講義</p> <p>第6回 個と集団 事例を素材にしたディスカッション</p> <p>第7回 人間関係の希薄化 ゲストによるディスカッション</p> <p>第8回 不登校 コミックを素材にしたディスカッションと大学教員講義</p> <p>第9回 発達障害 新聞記事を素材にした大学教員講義</p> <p>第10回 保護者クレーム 事例検討</p> <p>第11回 いじめ ビデオ事例を素材にしたディスカッション</p> <p>第12回 非行 今日の傾向についての、大学教員による講義</p> <p>第13回 虐待 DVと関連させた、大学教員による講義</p> <p>第14回 男女のありよう 大学教員による講義</p> <p>第15回 子どもの成長 事例を素材にした、大学教員の講義</p> <p>【教員間の連携】</p> <p><主担当教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日的事例提供や学校における課題提示、全体の進行等を行う。 <p><分担教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例への理論的アプローチ、行為の心理的分析及び理論的解説を行う。 ・パネリスト 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	授業の中で紹介する。				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	ディスカッションにおける姿勢や主張内容、発表会の内容などに基づいて、担当教員の合議の上でS～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能				
担当教員からのメッセージ	生徒指導の課題を子どもの姿を通して見つけ、その理論的な背景を理解しながら皆で改善方法を考えていく時間です。学校現場のリアルな事例を基にディスカッションをしていきます。				

授業科目名	子ども理解と学校教育相談の在り方				
担当教員名	伊田 勝憲		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部 A404	
分担教員名	原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	選択
キーワード	学校心理学、心理教育的援助サービス、予防的・開発的教育相談、「見立て」と「手立て」、「問題行動は必要行動」、チーム援助				
授業の目標	学校心理学の基本的な考え方を踏まえながら、従来からの教育心理学における発達、学習、人格・適応、集団といった諸領域の基礎知識を領域横断的に関連づけるとともに、それらの理論の深い理解に基づいて子どもの置かれている状況を捉える視点を獲得すること、そして心理教育的援助サービスの実践に必要な技法等を獲得することをこの授業の目標とする。				
学習内容	一次・二次・三次的援助サービスを俯瞰し、学習、心理・社会、進路・キャリア、健康といった援助領域に関わる心理学等の諸理論を取り上げる。子どもを理解する上で、理論がどのような役割を果たすのか、なぜ理論的枠組みを用いた子ども理解＝「見立て」が必要なのかについて、学校教育相談における援助サービスの実践＝「手立て」との関係から考察する。				
授業計画	<p>以下の内容について、講義（一部演習等を含む）を展開するが、関連科目の状況も考慮しながら、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 『生徒指導提要』から読み解く生徒指導と教育相談の関係 3 子ども理解の視点：発達と学習（1）・・・コールマンの焦点理論 4 学校教育相談の全体像を俯瞰する・・・3段階の心理教育的援助サービスという考え方 5 2つの適応・・・不登校・ひきこもりを例に考える外的適応と内的適応の関係 6 子ども理解の視点：発達と学習（2）・・・遺伝と環境の相互作用 7 なぜ理論が必要なのか・・・予測可能性と現実との不一致、そして共有可能性の視点から 8 きく（1）・・・カウンセリングの基礎：「無条件の肯定的関心」と「共感的理解」の意味とは 9 きく（2）・・・代表的なアセスメント・ツールとその活用：承認欲求と自己実現の関係を読み解く 10 いじめ防止対策推進法の考え方と対応の実際：22条、28条を中心に 11 子ども理解の視点：発達と学習（3）・・・学習理論と応用行動分析 12 みる（1）・・・観察法の基礎と選択的非注意（なぜか見えていない兆候） 13 みる（2）・・・ロールレタリング（演習）：ネガティブ感情の吐き出しを可能にする手立て 14 子ども理解の視点：発達と学習（4）・・・内発的目標と自律的動機づけ 15 まとめに代えて：学校心理学の倫理・・・研修の責務、研究と公開を中心に <p>【教員間の連携】 全15回を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。 ・授業の企画実施及び運営全般（原田） ・基礎理論の解説及び教材開発（伊田） ・事例及び学校課題の提示（鈴木・伊藤）</p>				
受講要件	なし				
テキスト	基礎となる論文や理論等の解説についてはコースパケット（資料集・冊子）を作成して初回に配布し、学期を通して使用するので毎回持参すること。また、必要に応じて、各回のトピックに関連する追加資料をその都度配布する。				
参考書	<p>文部科学省『生徒指導提要』2010年</p> <p>魚住絹代（著）・岡田尊司（監修）『子どもの問題 いかに関係するか：いじめ、不登校、発達障害、非行』PHP新書 2013年</p> <p>岡本茂樹（著）『反省させると犯罪者になります』新潮新書 2013年</p>				
予習・復習について	授業の展開に応じて、藤岡秀樹（著）「学校心理学から見た教育相談・生徒指導：予防的・開発的視点に焦点を当てて」（京都教育大学教育実践研究紀要，2010年＝配布するコースパケットに収録）およびその関連文献等を参考に復習・発展的学習に取り組むことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（グループワークや討論、授業時に記入するコメントペーパー等を含む）、学期中の節目において求めるレポート等の課題提出状況とその内容について、それぞれ70%と30%の割合で評価する。				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にメールにてアポイントメントを取っていただくと安心です。				
担当教員からのメッセージ	<p>「教師の子ども理解」を改めて振り返り、より適切な見方や方法論を習得することで、子ども一人ひとりをしっかりと受け止め、支援できる教師としてさらなる成長を期待します。（原田）</p> <p>実践的な課題を読み解く上で意外と理論を役立てられるのではないかとという視点から、学部時代に学んだ教育心理学の基礎理論や概念を思い出し、それらの価値を再発見する機会になればと思います。（伊田）</p>				

授業科目名	学級経営の実践と課題				
担当教員名	鈴木 秀志		所属等	教育学研究科	
			研究室	教育学部A棟407	
分担教員名	伊藤 公介、伊田 勝憲、原田 唯司				
クラス	高度	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	子どもの安心感、ルールとリレーション				
授業の目標	学級経営の現状や今日的課題について整理し、今必要な学級経営の姿に向けての実践力を身につける。				
学習内容	<p>学級や子どもの現状についてディスカッションを通じて理解した上で、子どもの安心感が実感できる学級経営の在り方を共に見つけていく。</p> <p>【実習との連携】 「基盤実習（滞在型）」で受け止めた、学級や子どもの姿を事例として活用する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 参加者各自が持つ学級経営の課題 2 学級経営の意義・あり方 3 望ましい集団・人間関係づくり① 教師と子供の関係づくり 4 望ましい集団・人間関係づくり② 子供同士、教師と保護者 5 学級の姿を理解する方法① Q-Uの理解・演習 6 学級の姿を理解する方法② アセスの理解・演習 7 学級の規範意識を育てる① シグナルIIの理解・演習 8 学級の規範意識を育てる② 事例をもとに、規範意識育成について 9 望ましい学級集団づくりを考える① 10 望ましい学級集団づくりを考える② 11 小学校低学年の学級経営の実践（小一プロブレム） 12 小学校中学年の学級経営の実践（10歳の壁） 13 小学校高学年の学級経営の実践 14 中学校の学級経営の実践（中一ギャップ） 15 まとめ（学級の目指す姿） <p>【教員間の連携】 主担当教員・分担教員が全回数を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。 <主担当教員> ・主担当は実務家教員、経験の事例と自己理論を伝えながら進行していく。 <分担教員> ・実務家教員及び研究者教員の異なる視点から、事例解釈や理論的背景の解説を行う。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能				
担当教員からのメッセージ	学校現場の困難さを出し合う、意見交換や討論を重視する参加型の授業をめざします。				

授業科目名	学校に応じた教育実践の開発				
担当教員名	石上 靖芳	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部A棟408		
分担教員名	村山 功、山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	後期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木5・6
キーワード	授業力量、実践的知識、アクションリサーチ				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業設計段階、授業実践過程における教師の意思決定の諸要素について理解を図る。 ・授業で学んだことをもとに連携協力校における実習等で授業における意思決定や授業方略について分析することができる。 				
学習内容	<p>教師は、授業設計段階（授業デザイン）において、授業目標、授業内容、教材、学習指導法、学習活動、学習形態、メディア、学習時間の配分などの各授業構成要素を決定しなければならない。さらに、生徒の実態などを想定しながら最大限に効果を期待して授業デザインを行っている。本授業においては、これらの授業デザイン段階における教師の意思決定や授業方略について先行研究を参照しながら検討を行う。また、ベテラン教師の授業実践のVTRを活用し、授業実践過程における生徒の学習状況の把握方法、授業計画の遂行・変更、発問の内容・時期などの意思決定について精緻に分析を行い整理する。さらに、実習校における授業研究から授業デザイン、実践過程における教師の意思決定について実証的に検討を行うことで質的な充実を図っていく。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業における教師の役割と意思決定 2. 授業デザインと教師の意思決定 3. 単元構成における教師の意思決定 4. 授業実践過程において求められる教師の授業力量 5. 授業実践過程における教師の意思決定モデル 6. 教師の意思決定研究から教師教育への示唆 7. 教師の意思決定能力を育成する教師教育カリキュラム 8. ベテラン教師の意思決定①（VTR活用） 9. ベテラン教師の意思決定②（VTR活用） 10. ベテラン教師の意思決定③（VTR活用） 11. 連携協力校研究授業の分析①（グループワーク） 12. 連携協力校研究授業の分析②（グループワーク） 13. 連携協力校研究授業の分析③（グループワーク） 14. 連携協力校研究授業の分析④（グループワーク） 15. まとめ 				
受講要件	とくになし				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	必要に応じて、指定または配布する				
予習・復習について	事前に配布された論文等の資料は必ず目を通しておく。当該校におけるアクションリサーチに関して、整理し発表できるようにしておく				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポート発表				
オフィスアワー	特に設定しないが、必要に応じて随時受け付ける				
担当教員からのメッセージ	業デザイン段階や授業実施過程における教師の意思決定の構成要素や授業方略について一緒に検討していきたい、授業研究における分析視点をふやしましょう				

授業科目名	教職実践研究方法論				
担当教員名	山崎 保寿		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟413	
分担教員名	武井 敦史、三ツ谷 三善、山口 久芳、渋谷 かさね、島田 桂吾、石上 靖芳、村山 功、原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲、大塚 玲、岡本 康哉				
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	教職大学院、ラウンドテーブル、教職キャリア、文献検索、研究手法、プレゼンテーション				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職キャリアをデザインすることができるようになる。 2. アクションリサーチの基礎的な技法を使うことができるようになる。 3. 学習を深くふり返ることができるようになる。 4. 分かりやすく伝えることができるようになる。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職キャリアデザインでは、現職教員と学部卒学生はそれぞれねらいが異なる。現職教員は、これまでの教職経験をふり返るとともに、社会環境の変化の中で教職キャリアをデザインする。学部卒学生は、学部時代の教育実習等をふり返りながら、教員として必要となる最低限の知識やコミュニケーション能力の向上をはかる。 ・方法論では、各種データベースの利用方法を身に付けた上で、領域ごとに分かれてテーマ選定や研究方法論について学習する。 ・各報告会に参加し、研究の深化を促す「問い」の立て方や、分かりやすく伝える方法を実践する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/14 (10:20～) 文献検索の方法 ☆附属図書館6階セミナールームで実施 2. 4/14 (12:45～) 文献の種類と特徴 (引用の方法を含む) 3. 【現職】 4/19(12:45～) 派遣大学院生のミッション① 【学卒】 4/21(9:00～) 教師像を探る 4. 【現職】 4/19(14:25～) 派遣大学院生のミッション② 【学卒】 4/21(10:30～) 学習履歴をふり返る 5. 【現職】 4/26(12:45～) 大人の学びを考える① 【学卒】 4/28(9:00～) 教師の仕事 6. 【現職】 4/26(14:25～) 大人の学びを考える② 【学卒】 4/28(10:30～) 教師を目指す 7. 【現職】 5/10(12:45～) キャリアデザインシートの作成 【学卒】 5/12(9:00～) 「目指す教師像」 8. 【現職】 5/10(14:25～) キャリアデザインシート報告 【学卒】 5/12(10:30～) 大学院生活の計画 9. 6/29 (予定) アクションリサーチを知る (6月頃の2年次生構想発表会に参画する) 10. アクションリサーチの計画と方法 11. 統計手法の基礎① 12. 統計手法の基礎② 13. 統計手法の基礎③ 14. 統計手法の基礎④ 15. 2/20 (予定) プレゼンテーションの実施 (1年次生報告会) 				
受講要件	教育実践高度化専攻1年生				
テキスト	【学卒】元兼正浩『教職論エッセンス』花書院、2015年				
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009 藤原文雄・露口健司・武井敦史編著『学校組織調査法』学寿出版、2010 など				
予習・復習について	適宜指示する				
成績評価の方法・基準	平常点				
オフィスアワー	個別に対応しますので、連絡を取りたい教員にメール等でアポイントを取って下さい。				
担当教員からのメッセージ	不定期で実施するため、日程等のアナウンスに注意してください。				

授業科目名	学校組織開発課題研究				
担当教員名	武井 敦史		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟412	
分担教員名	山崎 保寿、三ツ谷 三善、山口 久芳、渋谷 かさね、島田 桂吾				
クラス	学校組織	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	学校経営、教育政策、教育制度、教育課程、地域連携				
授業の目標	領域別振り返りを中心に、研究成果報告書の内容を視野に入れた課題研究に取り組む。課題研究に関する基礎的研究方法を身に付けるとともに、テーマ設定、先行研究・先行事例の把握、テーマの背景にある教育政策等の動向、学校現場の現状等について精査し、課題研究の成果をまとめる。				
学習内容	①課題研究に関する基礎的研究方法の習得 ②テーマの絞り込みと先行研究・先行事例の把握 ③テーマの背景にある教育政策等の動向、学校現場の現状等に関する精査・報告 ④先進事例の視察 ⑤関連文献の収集と読解				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクションリサーチ計画の検討 2. PADDOCの検討 3. 先行研究・代表的研究者の把握 4. 「問題意識・目的・方法」執筆・検討① 5. 「問題意識・目的・方法」執筆・検討② 6. 構想発表会の準備 7. 構想発表会でのプレゼンテーション 8. 成果報告書の執筆①（目次案） 9. 成果報告書の執筆②（序章の検討） 10. 成果報告書の執筆③（アクションリサーチの検討） 11. 成果報告書の執筆④（終章の検討） 12. 成果報告書の執筆⑤（全体構成の検討） 13. 成果報告書の執筆⑥（全体の構成の確認） 14. 成果報告会のプレゼンテーション準備 15. 成果報告会でのプレゼンテーション 				
受講要件	教育実践高度化専攻学校組織開発領域に所属する2年生				
テキスト	特に指定しない				
参考書	藤原・露口・武井編『学校組織調査法』学事出版、2010年 山崎保寿編『教務主任のマネジメント研修 BOOK』教育開発研究所、2014年 元兼正浩『次世代スクールリーダーの条件』ぎょうせい、2010年				
予習・復習について	事前に割り当てられた課題についてレポートをまとめてくること				
成績評価の方法・基準	学習内容の欄に示した事項に関する取組状況に対して、深め方、まとめ方、発表の仕方等の観点から成果を評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	授業デザインとその開発・評価				
担当教員名	石上 靖芳 (ISHIGAMI Yasuyoshi)		所属等	学院院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟408	
分担教員名	村山 功,河崎 美保,山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	前期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	単元デザイン、パフォーマンス課題の設定、パフォーマンス評価、校内研修				
授業の目標	次期学習指導要領等で導入される授業デザインの視点である主体的・対話的・深い学びについて、実際に取り組もうとするアクションリサーチでどのように実現していけばよいかを探究していく。				
学習内容	受講生が取り組もうとしているアクションリサーチに関して、主体的・対話的・深い学びの視点から、単元デザインとその評価の在り方について探究していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション 2 アクティブラーニングの検討① 3 アクティブラーニングの検討② 4 社会的構成主義の視点から「主体的・対話的・深い学び」の検討 5 対話分析から学習者の学習状況を検討する① 6 対話分析から学習者の学習状況を検討する② 7 オーセンティックアプローチからの単元デザイン① 8 オーセンティックアプローチからの単元デザイン② 9 アクションリサーチの検討①(受講生のレポート報告) 10 アクションリサーチの検討②(受講生のレポート報告) 11 アクションリサーチの検討③(受講生のレポート報告) 12 アクションリサーチの検討④(受講生のレポート報告) 13 アクションリサーチの検討⑤(受講生のレポート報告) 14 アクションリサーチの検討⑥(受講生のレポート報告) 15 総括 				
受講要件	教職大学院に在籍する2年生のみ受講可能				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	必要に応じて、指定または配布する				
予習・復習について	ゼミ形式で実施する機会が多いので、資料等を作成して授業に参加すること				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポート				
オフィスアワー	特に設定しないが、必要に応じて随時受け付ける				
担当教員からのメッセージ	アクティブラーニングの本質や意義、具体的内容について理解を深めていきましょう。				

授業科目名	教育方法開発課題研究				
担当教員名	石上 靖芳 (ISHIGAMI Yasuyoshi)		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟408	
分担教員名	村山 功、河崎 美保、山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	通年	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	実践研究、先行研究レビュー、アクションリサーチ				
授業の目標	2年次におけるアクションリサーチの構想、アクションリサーチの実際、アクションリサーチの評価を通して、原理・原則を抽出し整理していく。				
学習内容	統計的解析、質的分析方法、テキストマイニング等の分析方法を活用して、教育現場におけるアクションリサーチで収集したデータを精緻に分析していき、教育を改善する原理・原則を導出する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 アクションリサーチの方法論① 3 アクションリサーチの方法論② 4 統計的分析方法①(t検定) 5 統計的分析方法②(分散分析) 6 質的分析(定性的分析) 7 質的分析(コーディングの方法) 8 アクションリサーチの実際①(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 9 アクションリサーチの実際②(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 10 アクションリサーチの実際③(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 11 アクションリサーチの実際④(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 12 アクションリサーチの実際⑤(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 13 アクションリサーチの実際⑥(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 14 アクションリサーチの実際⑥(受講生が取り組んでいるARの発表と検討) 15 総括 				
受講要件	教育方法開発領域に所属する2年生のみ受講可能				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	必要に応じて、指定または配布する				
予習・復習について	ゼミ形式で実施する機会が多いので、資料等を作成して授業に参加すること				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポート				
オフィスアワー	に設定しないが、必要に応じて随時受け付ける				
担当教員からのメッセージ	受講生の真摯な取り組みを期待しています。				

授業科目名	生徒指導支援課題研究				
担当教員名	原田 唯司		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟405	
分担教員名	鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲				
クラス	生徒指導	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	実践的研究の進行管理、課題意識の明確化、関連情報の収集と分析、先行研究の検討、研究計画の策定、実践的研究の遂行、研究成果の分析、報告書の執筆				
授業の目標	2年次の「学校における実習」と実践的研究の取り組みに関して、各院生のプランニング、研究の推進、成果の可視化などを集团的に検討し、論理的に一貫した成果報告書を作成する。				
学習内容	院生各自の研究テーマや課題意識に関する実習校の現状や実態を把握するための技法や、実践的な問いを明確にするための手続き、実践を行った成果を整理・分析・解釈するための方法論などを習得し、学校教育現場に還元可能な有意義な実践的研究を遂行するための知識・技法を身に付ける。				
授業計画	「学校における実習」での学び、大学院での学修の中から出てきた問い、生徒指導・教育相談に関する論点、実践的研究の方法論・手法、実践の成果を記述方法などに関する院生からの問題提起と参加者全員によるディスカッションを毎回行う。院生からの定期的な報告が中心的な題材となる。				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	実習での学びをつねに可視化しておくこと				
成績評価の方法・基準	出席回数や受講態度、個人ごとの報告内容、討論への参加姿勢などを総合的に判断して、S～Dの評価を行う。				
オフィスアワー	基本的にいつでも。ただし、事前にメールで問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	教員集団と院生さんたちとの対話が中心になります。自らの意見を持って臨むようにして下さい。				

授業科目名	教育政策の流れと学校論				
担当教員名	三ツ谷 三善		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟402	
分担教員名	武井 敦史、山口 久芳、島田 桂吾、梅澤 収、菅野 文彦、渋江 かさね、山崎 保寿				
クラス	学校組織	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	教育政策、学校経営				
授業の目標	教育政策の流れを理解するとともに、学校経営を行う際に留意すべき内容を把握する。具体的には、近年の国及び静岡県の教育政策の形成のプロセスをおさえ、今後求められる学校経営の方向性を考察する力を養う。				
学習内容	<p>(1) 国の教育政策、(2) 静岡県の教育政策、(3) 学校経営について、各論点及び静岡県教育委員会事務局へのインタビューを基に学習する。</p> <p>【実習との連携】</p> <p>1) 授業で学習した近年の教育政策の流れや学校論に関する理念を踏まえ、実習校での教育政策の浸透の在り方と課題について実践的に考察する。</p> <p>2) 授業で学習した近年の教育政策の流れや学校論に関する理念を踏まえ、静岡県教育委員会事務局職員に対してインタビューを行い、その内容を授業で発表する。</p>				
授業計画	<p>1 ガイダンス・戦後教育行政と学校経営の展開 (三ツ谷)</p> <p>【単元】国の教育政策</p> <p>2 教育改革の手法 (島田)・教育委員会制度の改革 (三ツ谷)</p> <p>3 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(平成27年12月) (三ツ谷)</p> <p>4 中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(同上) (三ツ谷)</p> <p>5 中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(同上) (三ツ谷)</p> <p>6 21世紀型能力とESDは学校教育の主軸になるか (梅澤)</p> <p>【単元】静岡県の教育政策</p> <p>7 平成29年度教育行政の基本方針 (静岡県教育委員会事務局教育政策課職員)</p> <p>8 理想の学校教育具現化委員会報告 (三ツ谷)</p> <p>9 静岡県立高校の長期計画 (院生の発表・三ツ谷)</p> <p>10 学校再編と小中一貫教育 (武井)</p> <p>11 就学前教育の推進体制の構築 (院生の発表・島田)</p> <p>【単元】学校経営</p> <p>12 地域社会・家庭の機能変化と学校教育の関係性を考察する (菅野)</p> <p>13 これからの学校経営の在り方 (多忙化への対応を中心に 高校篇) (三ツ谷)</p> <p>14 これからの学校経営の在り方 (多忙化への対応を中心に 小中学校篇) (山口)</p> <p>15 まとめ (三ツ谷)</p>				
受講要件	なし				
テキスト	授業の中で指示、配布する				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S~Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にメールにてアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	教育改革が続けられている中で、教育政策の流れと教育政策形成のプロセスを理解するとともに、学校とは何かということを深く考え、自らの学校経営の哲学を持ちましょう。				

授業科目名	子どもが苦戦する諸問題の理解と教師の対応				
担当教員名	原田 唯司		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟405	
分担教員名	伊田 勝憲、鈴木 秀志				
クラス	生徒指導	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	ケースメソッド、いじめ、不登校、発達障がい、虐待、校内支援体制				
授業の目標	いわゆる「生徒指導上の諸問題」のうちでとくに学校教育現場での確な対応が求められる“子どもが苦戦する諸問題”についてより正確に理解・解釈し、学校教育教員としてより適切な支援策を企画・遂行する能力（課題理解・対応能力）の獲得・強化を目指す。				
学習内容	<p>学校教育教員として遭遇する“子どもが苦戦する問題”の理解と対応策についてより適切な見解を持つことができること。現職大学院生はそれに加えて、今後出会う可能性のある“子どもが苦戦する問題”のより確実な見立てに基づいて、適切な支援目標・計画を立案し、関係者・関係機関との連携も含め、支援の実践に取り組むことができることを目標とする。</p> <p>そのために、①コースデザイン及び総合的事例検討（ケースメソッド）のねらい、内容、進め方などに関する基本的事項、②具体的ケース、及び③ケースの見立てと対応策の検討に資する理論や研究成果に関する資料に基づいて、討論型の授業を実施する。</p> <p>授業は、①や③に関する授業担当者からの説明のほかに、主として②の具体的なケースに関する受講者同士及び授業担当者を交えた討論から構成される。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション：コースデザインの説明、ケースメソッド教育概説 2.当事者研究① 3.当事者研究② 4.ケースメソッド① 5.①の解説・資料に基づく説明：マイナス感情の処理 6.ケースメソッド② 7.②の解説・資料に基づく説明：いじめ 8.ケースメソッド③ 9.③の解説・資料に基づく説明：発達障害の特性理解 10.ケースメソッド④ 11.④の解説・資料に基づく説明：不登校 12.ケースメソッド⑤ 13.⑤の解説・資料に基づく説明：虐待 14.ケースメソッド⑥ 15.⑥の解説・資料に基づく説明：校内体制づくり 				
受講要件	なし				
テキスト	とくにない。参考資料は適宜紹介する。				
参考書	なし				
予習・復習について	とりああげる予定の「生徒指導上の諸問題」に関する参考書に目を通しておくこと。				
成績評価の方法・基準	<p>下記評価項目における達成度を討論への参加状況やレポートにより判断し、S～Dで判定する。</p> <p>(1) グループワークや討論への参加の質と内容</p> <p>(2) 課題レポートの内容</p>				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にメールにてアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	単に生徒の個々人の問題を解決することだけでなく、それを通して、教育のあり方（授業や生徒指導のあり方）や可能性について、一緒に考えていきましょう。				

授業科目名	子ども同士の人間関係を作るグループアプローチの開発				
担当教員名	伊藤 公介	所属等	教育学研究科		
		研究室	教育学部A棟406		
分担教員名	伊田 勝憲、原田 唯司、鈴木 秀志				
クラス	生徒指導	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木5・6
キーワード					
授業の目標	学級・授業・部活動等での子ども同士の人間関係を、意図的につくっていく技法と理論を学ぶ。				
学習内容	<p>子ども集団（授業等）に実際に参加しながら、グループアプローチの方法を体験していく。公立小中学校にも出向き、チームティーチングで授業を行い、あるいは生徒の立場でも授業参加し、授業実践力を身につける。</p> <p>【実習との連携】 実習校でのグループアプローチ授業実施予定</p>				
授業計画	<p>【単元】理論的押さえ</p> <ol style="list-style-type: none"> なぜグループアプローチなのか（於 大学） グループアプローチと授業（於 大学） グループアプローチの種類（於 大学） <p>【単元】授業とグループアプローチ</p> <ol style="list-style-type: none"> 模擬授業体験（於 大学） 大学教員による提案授業（於 小学校） 大学教員による提案授業（於 中学校） 振り返り（於 大学） 院生による提案授業（於 実習校） 振り返り（於 大学） 院生による提案授業（於 実習校） 振り返り（於 大学） 院生による提案授業（於 実習校） 振り返り（於 大学） 教科授業でのグループアプローチ（於 大学） まとめのディスカッション（於 大学） <p>【教員間の連携】 主担当教員・分担教員が全回数を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。 <主担当教員> ・主担当教員は、グループアプローチの多彩なアイデアを提示する。また授業実践の中心授業者としての役割を担う。 <分担教員> ・二人の分担教員は、自ら演習に加わり主担当を補助する。また、ディスカッションでは、心理的分析など理論づけを担当する。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動、授業参観や授業実践の内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能				
担当教員からのメッセージ	グループアプローチを活用した授業は、教師も子ども達も自己開示しながら楽しく行います。だからこそ、是非積極的に参加してほしいと願っています。				

授業科目名	特別支援教育の現状と課題				
担当教員名	石川 慶和	所属等	学院院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟304		
分担教員名					
クラス	特別支援	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	特別支援教育、今日的課題、理念・制度、文献購読				
授業の目標	<p>①特別支援教育の現状と課題について国や自治体の施策や各学校の取り組みを踏まえて分析し、討議によって理解を共有・深化させる。</p> <p>②特別支援教育を推進する上での基本的な仕組みについて理解し、自らの実践にひきつけながら今後の方向を考える。</p>				
学習内容	特別支援教育の理念・制度、実践をキーワードに、特別支援教育の基礎的・概念的な理解を図る。各テーマについて、基礎的資料・データ、事例報告・研究論文をまとめ、発表することで、課題の分析力や解決力を養う。また課題について受講者との討議をい、チームで理解し、考察するための知識・技能を身につけることが目的である。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 特別支援教育のアクションリサーチ 3. 調査系論文の読み方 4. 特別支援教育の理念・制度：特別支援教育の今日的課題 5. 特別支援教育の理念・制度：資料・文献レビュー 6. 特別支援教育の理念・制度：発表 7. 特別支援教育の実践①：特別支援学校での指導 8. 特別支援教育の実践①：資料・文献レビュー 9. 特別支援教育の実践①：発表 10. 特別支援教育の実践②：小中学校等での指導 11. 特別支援教育の実践②：資料・文献レビュー 12. 特別支援教育の実践②：発表 13. 様々なアプローチ：特別支援教育に関連する様々な課題 14. 様々なアプローチ：資料・文献レビュー 15. 様々なアプローチ：発表 				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定する。学習内容や課題を記したプリントや資料を配布する。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	文献レビュー（70%）と発表・討議（30%）で総合的に評価する。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントをとること。				
担当教員からのメッセージ	多様なニーズを持つ子どもの支援の充実、また保護者や関係機関の専門家との連携につながる接点を見つけるために、受講者同士の討論を深めていきましょう。				

授業科目名	障害児の認知発達とその支援					
担当教員名	大塚 玲	所属等	大学院教育学領域			
		研究室	教育学部K棟302			
分担教員名						
クラス	特別支援	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木1・2	
キーワード	特別支援教育、アセスメント、発達障害、知能検査					
授業の目標	さまざまな領域の認知発達とそのアセスメントの方法について習得し、認知発達に応じた支援方法の理解を深める。					
学習内容	子どもの認知特性と認知発達について、その理論とアセスメント方法を知るとともに、教育実践高度化実習での観察や教職経験に基づいた自らの実践事例をもとに、障害のある児童生徒の認知発達の把握の方法やそれに基づく支援方法の実践力を磨く。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知能検査の意義と目的 2. 知能検査の実施方法 3. 知能検査の実施（1） 4. 知能検査の実施（2） 5. 知能検査結果のまとめ 6. 知能検査結果の解釈と支援方法（1） 7. 知能検査結果の解釈と支援方法（2） 8. 知能検査結果の解釈と支援方法（3） 9. 知能検査結果の解釈と支援方法（4） 10. ケース研究（1） 11. ケース研究（2） 12. ケース研究（3） 13. ケース研究（4） 14. ケース研究（5） 15. ケース研究（6） 					
受講要件	なし					
テキスト	上野 一彦・松田 修・小林 玄・木下 智子 「日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント - 代表的な指標パターン解釈と事例紹介」 日本文化科学社 (2015) ISBN-10: 4821063719					
参考書	参考資料は適宜紹介する。					
予習・復習について	授業の後半は院生自らの経験等に基づく事例を発表してもらい、それをもとにディスカッションする。					
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、S～Dで判定する。					
オフィスアワー	火曜日の昼休みまたはメールで					
担当教員からのメッセージ	障害のある子どもたちに対する有効な支援を行うためには、さまざまな認知領域における定型発達の様相の正しい理解と、障害のもつ認知特性を正確に理解することが不可欠です					

授業科目名	特別支援教育における授業づくり				
担当教員名	山元 薫		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部K棟304	
分担教員名					
クラス	特別支援	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	学習指導要領、障害特性、子ども理解、ユニバーサルデザイン				
授業の目標	特別な教育的ニーズのある児童生徒の確かな学力を育む授業づくりについて理解する。また、実際に授業を構成することを通して実践に向けての手掛かりをつかむ。				
学習内容	学習指導要領や教育課程等、授業づくりに関する基本的な事項を理解する。あわせて障害特性を踏まえた「指導の工夫」について学び、すべての児童生徒が参加し確かな学力を育む授業のつくり方について考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における特別支援教育の動向 2. 知的障害のある児童生徒の学習上の特性と教育課程 3. 特別支援学級における授業づくり（知的障害） 4. 自閉症の認知特性及び教育課程 5. 特別支援学級における授業づくり（自閉症・情緒学級） 6. 通級指導教室における指導 7. 通常の学級における特別支援教育の推進とユニバーサルデザイン 8. 通常の学級に在籍する児童生徒の学習上の困難さ 9. ユニバーサルデザインの考え方を活用した授業づくり① 10. ユニバーサルデザインの考え方を活用した授業づくり② 11. 授業参観① 12. 授業参観② 13. 模擬授業① 14. 模擬授業② 15. まとめ 				
受講要件	なし				
テキスト	授業の中で資料を配布します				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	基準：レポート及び模擬授業に基づいて評価する				
オフィスアワー	研究室 K304 に来てください				
担当教員からのメッセージ	すべての学びの場で求められている授業力向上について、特別支援教育の視点から一緒に考えましょう。また、この授業での学びを今後の教育実践にぜひ活用していただき、障害のある子もない子も「分かった」「できた」「楽しいな」と思える授業の具現化を目指して欲しいと願っています。				

授業科目名	学校組織開発領域別実習				
担当教員名	武井 敦史		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟412	
分担教員名	山崎 保寿、三ツ谷 三善、山口 久芳、洪江 かさね、島田 桂吾				
クラス	学校組織	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	3	曜日・時限	集中
キーワード					
授業の目標	<p>基盤実習で修得した知識・技能を踏まえ、領域別実習として、教育課程・経営の専門領域に関する内容や「学校づくり」に関する内容を実習を通して身につける。連携協力校（実習校）における実習と教職大学院の授業との往還をつくりながら実施する。</p>				
学習内容	<p>実習校の活動に参画し教員とともに学校改善に取り組む。特に、学校評価、危機管理、管理職の役割などの実情を、実習校における観察、インタビュー調査を通して学ぶ。教職大学院の授業で振り返ることによって、体験によって身につけた知識の深化と内在化を図り、理論との関連を考察する。そのために、実習計画に基づいて、実習校の教師と調和しつつ意欲的な実習活動を行う。また、授業との往還の場面において、的確な分析を示すようにする。</p> <p>【実習との連携】 実習校における観察・インタビュー調査の結果を授業の内容との関連を図る。「危機管理の実践と課題」、「教育政策の流れと学校論」の授業等で振り返る。</p>				
授業計画	<p>【大単元】実習校の学校経営分析（5回程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域別実習に関するガイダンス ・実習校地域の分析 ・実習校における学校経営に対する理解 ・校長・教頭へのインタビューの実施 ・実習校における校長の経営ビジョンの分析 <p>【大単元】学校改善ビジョンの策定（5回程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の焦点化と重点テーマの発見 ・改善ビジョンとノウハウの研究 ・改善案の策定と検討 ・報告作成（前期の基盤実習と併せて指導） ・発表・意見交換、今後の課題の明確化 <p>【教員間の連携】 各実習生の指導を担当教員で分担しつつ、実習全体の指導と振り返りを領域全体で実施する。実務家教員と研究者教員が連携して実習と授業の往還をつくる。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	実習中の活動、レポート、発表により判断し、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時、メールでアポイントメントをとること。				
担当教員からのメッセージ	<p>連携協力校の全面的な支援のもとに、充実した実習が行われるよう配慮していきます。授業との往還により、体験と理論を融合させ、高度な実践能力の育成を目指します。</p>				

授業科目名	教育方法開発領域別実習				
担当教員名	石上 靖芳	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部A棟408		
分担教員名	村山 功、山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	3	曜日・時限	集中
キーワード					
授業の目標	前期に学んだ学力観・学習観や新たな学びの方法を、実習を通して実践することで、その内容を深く理解するとともに、授業化する力量をつける。				
学習内容	各自が実習校で授業実践を行う。この授業実践を核としつつ、事前の授業案検討、授業観察、授業評価の3つの活動を行い、前期に学んだ学力観・学習観を反映した授業の構想・実践・評価の方法について学ぶ。				
授業計画	<p>授業実践は全員が行うが、全体で検討・観察・評価する研究授業を2つ設定する。</p> <p>1. 自分自身の授業実践 授業構想検討 授業実施 授業評価 報告書作成</p> <p>2. 研究授業1 研究授業1の記録・観察 研究授業1の分析・評価</p> <p>3. 研究授業2 研究授業2の記録・観察 研究授業2の分析・評価</p>				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて配布する。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	実習中の活動及報告書の内容に基づいて、担当教員の合議の上、S~Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントをとること				
担当教員からのメッセージ	基盤実習（訪問型）と並行して行います。複数の大学教員が実習に同行しますので、大学の各授業に戻ったときに、大学教員と学生が同じ観察経験を元に議論していくことができるのがこの実習の特徴です。				

授業科目名	生徒指導支援領域別実習				
担当教員名	原田 唯司		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟405	
分担教員名	鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲				
クラス	生徒指導	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	3	曜日・時限	集中
キーワード	追究テーマ・課題意識の発掘、個別支援の実際、校内生徒指導体制のあり方、教師－子ども及び子ども同士の人間関係、観察・インタビュー・調査				
授業の目標	<p>前期の「基盤実習」に引き続き連携協力校の教育活動に定期的に参加し、学級担任や特別支援教育コーディネータ、生徒指導主事主任などの補助者役割を務めながら、子どもが安心感を持つことができる学級づくり、子どもの対人関係の改善、サポートを要する児童生徒の見立てと支援計画の策定、保護者や同僚、校外専門機関との連携などの在り方に関する具体的体験に基づいて、学校における児童生徒の指導支援に関わる個別・具体的な活動計画を立案する力を獲得する。</p> <p>この過程を通して2年次の学校改善力実習における追究テーマ・課題意識を明確にする。</p>				
学習内容	<p>生徒指導支援の「領域別科目」と連動し、(1)子どもが安心感を感じることができる学級づくり、(2)子どもの対人関係の改善、(3)サポートを必要とする子どもの見立てと支援計画の策定、(4)保護者や同僚、校外専門機関との連携などに関する方法の習得を目指すとともに、生徒指導・支援面に関する実習校の現状や特徴、課題などをわかりやすく伝える事例報告スキルを学習する。</p> <p>【実習との連携】 なし</p>				
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2. ～14. 下記の視点に基づいて連携協力校の教育活動に参加する。 ①子どもが安心感を感じることができる学級づくり ②子どもの対人関係の現状と改善方向 ③サポートを要する児童生徒の見立てと支援計画の策定 ④保護者・同僚、校外専門機関との連携</p> <p>受講生はこれらに関する「領域別科目」の授業で実習校あるいは自らの体験を含め現状・特徴の観察とまとめを行い、相互ディスカッションを行う。</p> <p>それを受けて次回の実習の際には、「領域別科目」の授業を通して深められた観察視点を持って参加し、記録としてまとめ、次回の「領域別科目」の授業に臨む。このサイクルを繰り返す。</p> <p>15. 体験の統合・全体のまとめ</p> <p>【教員間の連携】 単元に応じて担当教員全員がチームを組んで実習校を訪問する。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または資料を配布する。受講学生自らが積極的に資料の蒐集をしてほしい。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	学校における実習の活動及びレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントをとること。				
担当教員からのメッセージ	皆さんとともに学び合いたいと思います。				

授業科目名	特別支援教育領域別実習				
担当教員名	大塚 玲	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟302		
分担教員名	岡本 康哉				
クラス	特別支援	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	3	曜日・時限	集中
キーワード	実践				
授業の目標	障害種別や障害程度に応じた教育課程の編成、一人ひとりの教育的ニーズに応える個別の指導計画・教育支援計画の作成、発達段階や個の状況に即した授業の改善、さらには、特別支援学校の地域におけるセンター的役割など、特別支援領域の固有の課題・テーマに関して現状の把握と課題の抽出を行い、それらに基づいてテーマ・課題に関する改善プランをまとめることができる。				
学習内容	<p>講話や学校経営書など関係資料によって、教育課程の編成、個別の指導計画・教育支援計画、校内研修（授業改善）、地域におけるセンター的役割などについて、現況と課題をアセスメントする。</p> <p>授業構想、授業案の作成、授業（教育実践）の参与観察、及び担当教師との協議を通して、成果や課題、改善策等を検討・提案する。</p> <p>【実習との連携】 特別支援教育領域で開講される選択科目と連動させる。</p>				
授業計画	<p>（事前学習として、大学教員による、特別支援教育の諸課題についての現況についての講義、及び受講学生の課題意識の確認を行う。）</p> <p>【単元】教育課程の編成と個別の指導計画の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業担当教師による現況説明、受講学生による課題意識の説明、打ち合わせ 2. 授業（教育実践）の参与観察 3. 個別の指導計画の作成 4. 授業後の授業担当教師、大学教員との意見交換 <p>【単元】個別の指導計画から授業づくりへ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業担当教師による現況説明、受講学生による課題意識の説明、打ち合わせ 2. 授業構想、学習指導案の作成 3. 授業（教育実践）の参与観察 4. 授業後の授業担当教師、大学教員との意見交換 <p>【単元】授業の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業担当教師による現況説明、受講学生による課題意識の説明、打ち合わせ 2. 授業構想、学習指導案の作成 3. 授業（教育実践）の参与観察 4. 授業後の授業担当教師、大学教員との意見交換 <p>【単元】特別支援学校の地域におけるセンター的役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教師による現況説明、受講学生による課題意識の説明、打ち合わせ 2. 地域の小学校（中学校）への訪問＜授業（教育実践）の参与観察＞ 3. 授業後の授業担当教師、大学教員との意見交換 <p>（事後学習として、リフレクション、討議（意見交換）、まとめ＜報告書の作成＞を行う。）</p> <p>【単元】教員間の連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育コーディネーターの役割 2. 校内体制の整備 				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または資料を配布する。受講学生自らが積極的に資料の蒐集をしてほしい。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	学校における実習の活動及び単元ごとのレポートについて、担当教員が合議の上でS～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントをとること。				
担当教員からのメッセージ	教育現場の様々の課題を直接に体験することで、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、課題を克服するために必要な知識と技能が磨けるように、教育現場の教師、子どもたちとのコミュニケーションを重要にしていきましょう。				

授業科目名	学校改善力育成実習				
担当教員名	三ツ谷 三善		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟402	
分担教員名	山崎 保寿、武井 敦史、山口 久芳、渋谷 かさね、島田 桂吾、石上 靖芳、村山 功、原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲、大塚 玲、岡本 康哉				
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	集中
キーワード	新人教員、学校づくり、成果報告、学校改善				
授業の目標	それまでの科目履修で獲得した知識・技法をベースに、連携協力校・附属学校をフィールドとして、大学院生個々の追究テーマを定め、具体的計画を策定し、実践し、評価するというPDCAサイクル型の取組を経験することを通して、実習校の特色や個性に応じた学校改善の実践を経験し、新しい学校作りの担い手にふさわしい実践的指導力を身に付ける。				
学習内容	(1) 追究テーマに関する現状・実態の把握、(2) 適切で具体的な実践計画の策定、(3) 実践のリフレクションと評価、(4) 取組全体の評価、に関する知識と方法を獲得する。また、取組の成果の適確なプレゼンテーションや他者の取組の中から重要な事項を把握する方法を習得する。				
授業計画	<p>【単元】実習校との関係作り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 事前訪問・打合せ① 3. 事前訪問・打合せ② <p>【単元】追究テーマの明確化</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 先行実践例の学習 5. テーマ検討①－テーマを絞り、選択理由を明確にする 6. テーマ検討②－候補テーマの中から優先するテーマを選択する <p>【単元】具体的実践計画の策定</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 具体的実践計画の提案・討議①－第一次案の作成と相互検討 8. 具体的実践計画の提案・討議②－細部の検討 9. 実践計画仮案の作成 10. 実習校に対する具体的実践計画の説明 11. 実践計画の提出 <p>【単元】実践とリフレクション</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ～23. (適宜振り返りと検討の時間を設定する) <p>【単元】取組の成果と課題のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. 資料・記録の整理 25. 取組の経緯の取り纏め 26. 成果の確認と記述 27. 成果報告会の準備 28. ～29. 成果報告会 30. 最終報告書の作成 				
受講要件	基盤実習を終了している学卒大学院生				
テキスト	必要に応じて配布				
参考書	必要に応じて紹介				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	実習中の活動、成果報告の内容及び最終報告書を手がかりとして総合的に判断し、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントを取る				
担当教員からのメッセージ	本専攻での学びを形として表し、これからの大学院修了の新人教員にふさわしい力量をぜひ身に付けたい。				

授業科目名	学校改善力高度化実習				
担当教員名	三ツ谷 三善		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟402	
分担教員名	山崎 保寿、武井 敦史、山口 久芳、渋谷 かさね、島田 桂吾、石上 靖芳、村山 功、原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲、大塚 玲、岡本 康哉				
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	4	曜日・時限	集中
キーワード	実習、課題研究、成果報告、実践力、学校改善				
授業の目標	それまでの科目履修で獲得した知識・技法をベースに、連携協力校・附属学校をフィールドとして、大学院生個々の追究テーマを定め、具体的計画を策定し、実践し、評価するというPDCAサイクル型の取組を経験し、在籍校での実践やこれまでの教職経験とを比較検証し、複数事例から本質的事項や今後の実践のための手がかりを抽出することで、スクールリーダーにふさわしい高度な実践的指導力を身に付ける。				
学習内容	1) 追究テーマに関する現状・実態の把握、(2) 適切で具体的な実践計画の策定、(3) 実践のリフレクションと評価、(4) 取組全体の評価、に関する知識と方法を獲得する。また、在籍校やこれまでの教職経験と実習校での取組を比較検討し、本質的事項や今後の実践のための手がかりを抽出する方法について習得する。さらに、取組の成果の適確なプレゼンテーションや他者の取組の中から重要な事項を把握する方法を習得する。				
授業計画	<p>【単元】実習校との関係作り</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 事前訪問・打合せ① 事前訪問・打合せ② <p>【単元】追究テーマの明確化</p> <ol style="list-style-type: none"> 先行実践例の学習、自身の経験のまとめ テーマ検討①－在籍校での経験から課題と方向性を探る テーマ検討②－これまでの教職経験を整理し、検証可能なテーマを絞る <p>【単元】具体的実践計画の策定</p> <ol style="list-style-type: none"> 具体的実践計画の提案・討論①－第一次案の作成と相互検討 具体的実践計画の提案・討論②－詳細な計画の検討 実践計画仮案の作成 実習校に対する具体的実践計画の説明 実践計画の提出 <p>【単元】実践とリフレクション</p> <ol style="list-style-type: none"> ～23. (適宜振り返りと検討の時間を設定する) <p>【単元】取組の成果と課題のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 資料・記録の整理 取組の経緯の取り纏め、先行経験との比較検討 成果の確認と記述 成果報告会の準備 ～29. 成果報告会 最終報告書の作成 				
受講要件	基盤実習を終了している現職大学院生				
テキスト	必要に応じて配布				
参考書	必要に応じて紹介				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	実習中の活動、成果報告の内容、最終報告書を手がかりとして総合的に判断し、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントを取る				
担当教員からのメッセージ	これからの教員生活の羅針盤となるような体験を蓄積し、修了後に具体的に学校改善に向かった取組をぜひ積極的に進められたい。教員も、皆さん方の取組から大いに学習したいと考えている。				

授業科目名	教師が苦戦する諸問題への対応				
担当教員名	鈴木 秀志		所属等	教育学研究科	
			研究室	教育学部A棟407	
分担教員名	伊藤 公介、原田 唯司、伊田 勝憲				
クラス	生徒指導	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	教師の指導力、チーム学年・学校、保護者理解・外部連携				
授業の目標	教師が苦戦する諸問題について、子どもの生活環境や教師の労働環境などの要因と、子ども、教師の個の理解を関連させて、課題に応じた対応の在り方について考察する。				
学習内容	1 子供理解と教師の指導力を切り口に、教師と子供の関係を考察する 2 教師同士の間関係及び労働条件が、教師同士のチーム作りにどのような影響があるか考察する 3 教師が苦戦する保護者への対応のあり方・外部機関との関係の在り方について考察する				
授業計画	1 (4/10:月) ガイダンス 基本的な考えと授業の進め方 課題洗い出し 《第1部 教師と子供の関係》 2 (4/17:月) 子供理解 3 (4/24:月) 指導力不足 4 (5/1:月) 学級崩壊 5 (5/8:月) 教師のタイプ別荒れ 《第2部 教師と教師の関係》 6 (5/15:月) 教師同士の間関係 チーム作り 7 (5/22:月) パワハラ・セクハラ 8 (5/29:月) 教師のメンタルヘルス 9 (6/5:月) バーンアウトと感情労働1 (原田先生) 10 (6/12:月) バーンアウトと感情労働2 (原田先生) 《第3部 教師と保護者及び外部機関との関係》 11 (6/19:月) モンスターペアレント対応 12 (6/26:月) 保護者対応1 13 (7/3:月) 保護者対応2 14 (7/10:月) 外部機関との連携 15 (7/24:月) 今後の課題とまとめ				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	授業中にあげていく				
予習・復習について	授業で扱ったテーマについて、授業外でも積極的に自ら調べ、受講生同士で議論していく姿勢を身につけること				
成績評価の方法・基準	授業中での発言・態度、およびレポートなどをもとに、総合的に評価する				
オフィスアワー	随時可能				
担当教員からのメッセージ	(1) 現場の教師の視点から、実習校の現状を観察し、現場がもつ長所・短所を浮かび上がらせ、短所に関しては対応策を考える。 (2) 院生・教員間の討論で培った対応策を実際に実習校で実践してみる。				

授業科目名	子どもが安心感を実感するための教師の関わり				
担当教員名	伊藤 公介		所属等	教育学研究科	
			研究室	教育学部A棟406	
分担教員名	鈴木 秀志、伊田 勝憲、太田 正義、川口 正義、三森 重則				
クラス	生徒指導	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	子どもの安心感、居場所づくり、子どもの貧困、引きこもり支援、おとな（教師）の関わり				
授業の目標	心理的、福祉的支援の実践に携わっている専門家3名が、子どもの安心感の確立をキーワードに、子どもとその周辺に対する支援に関する基本的な理論や考え方、方法、実践活動の実際、成果と課題などを中心に講述を行うとともに、それぞれの実践の立場からの子どもとの関わりづくりに関する学校や教師に対する要望や期待、意見などに基づいて参加者間で討論を行い、子どもに安心感をもたらす教師の関わりとはどのような視点と方法によって形作られるのかに迫ることとする。これらを通して、自らの教師としての子どもとの関係づくりの考え方や方法を身につけ（学部新卒学生）、その上で、振り返り、再構成する（現職教員学生）ことを目標とする。				
学習内容	<p>(1)子どもが安心感を持つために有益なスクールソーシャルワーカーの立場からのアプローチと基本的な考え方や事例を知る（川口正義先生担当）。</p> <p>(2)NPO 法人や「静岡市引きこもり支援センター（DanD a n しずおか）」における引きこもり支援という立場からの、引きこもりの心理やプロセス、引きこもり青年及び家族への支援に関する基本的考え方と方法、実際の事例を知る（三森重則先生担当）。</p> <p>(3)スクールカウンセラーや構成的グループエンカウンターの実施を通して学校や児童生徒支援を続けてきた校外の心理支援専門家の立場から見た心理的支援に関する考え方と方法、具体事例を知る（太田正義先生担当）。</p> <p>(4)毎回授業の後半部でその日に出された重要な論点に関して意見交換及び討論を行う。</p> <p>(5)担当講師ごとに意見や感想をレポートとしてまとめ、各担当講師に提出する。</p>				
授業計画	<p>第1回から5回 スクールソーシャルワークの理論と方法、事例検討及び教師の関わりとは？（担当：川口正義）</p> <p>第6回から10回 引きこもり支援の理論と方法、事例検討及び教師の関わりとは？（担当：三森重則）</p> <p>第11回から15回 心理的支援の理論と方法、事例検討及び教師の関わりとは？（担当：太田正義）</p>				
受講要件	特にない				
テキスト	特にない。授業中に参考資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	各回の主担当教員から必要に応じて提示する。				
成績評価の方法・基準	ディスカッションにおける姿勢や主張内容、発表会の内容などに基づいて、担当教員の合議の上でS～Dで判定する。				
オフィスアワー	月3・4時限の授業前後・A419（講師控室）または伊藤・伊田・鈴木研究室				
担当教員からのメッセージ	子どもが安心感を保ちながら学校・学級生活を送るために教師はどのような支援を日頃から心がければよいか、子どもたちが安心感を実感することができる「居場所」とは、いかなる関係と場であろうか？ 授業では学校内外で子どもと家族と向き合うそれぞれの心理的、福祉的支援の実践者という立場から、（教師の立場ではあまり出会うことはないであろう）現実問題としての「子どもの日常生活世界」を伝え、子どもが安心感を実感することができるために学校（教師）が持つべき視点（理解の枠組み）を呈示し、授業全体を通して子どもにとって大切であり、				

授業科目名	子ども支援のための他者・他機関との関わり				
担当教員名	原田 唯司		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟405	
分担教員名	鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲				
クラス	生徒指導	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	校内外の資源、連携協力、外部専門機関				
授業の目標	学校教育教員とは異なる専門的知識・技法や“問題”のとらえ方・視点を持つ校外専門機関と学校との間で、子ども支援を目的とする連携協力関係づくりを進めるために必要な知識を獲得する。				
学習内容	<p>(1) 子ども支援のために学校が連携協力関係の確立を視野に入れておくべき主たる校外専門機関の主旨・目的・活動内容・組織編成などについて理解する。</p> <p>(2) 各校外専門機関と学校との連携協力の展開に関する実態を知り、今後解決すべき課題や改善の方向性を明らかにする。</p> <p>(3) 各校外専門機関の活用のある方や連携協力の方法について、具体的知識や手がかりを獲得する。</p> <p>(4) 各校外専門機関の活動原理を支える理論・考え方・実践的な根拠を、学校教育との比較対照の上で理解する。</p>				
授業計画	<p>1. コースデザインの説明</p> <p>【単元】教育領域（以下、順不同）</p> <p>2. 「スクールカウンセラー」の役割と活用方法について知る</p> <p>3. 「静岡市適応指導教室」－通所児童生徒の特徴と支援方法・工夫－</p> <p>4. 「静岡市における特別支援教育」－特別支援教育をめぐる動向とインクルーシブ教育の今後の展開－</p> <p>5. 「情緒障害児短期治療施設内分校における教育的支援」－入所児童生徒の特徴と教育的支援－</p> <p>【単元】福祉領域</p> <p>6. 「発達障害者支援センター」－施設の役割と支援及び学校との連携－</p> <p>7. 「静岡市児童相談所（家庭児童相談室）－虐待への対応、学校との連携－</p> <p>8. 「家庭児童相談室」－学校や保護者との連携－</p> <p>9. 「通級指導教室の取り組み」－取組の紹介と事例の検討</p> <p>10. 「学校の危機管理」－静岡県精神保健福祉センターの取組</p> <p>【単元】司法・矯正領域</p> <p>11. 「少年サポートセンター」－少年非行の現状と対応、及び学校との連携－</p> <p>12. 「少年鑑別所－施設の概要、非行少年の特徴及び支援と学校との連携－</p> <p>13. 「保護司会」－保護司の役割・活動内容、学校との連携の実際－</p> <p>【単元】その他</p> <p>14. 「教育と福祉との連携のあり方について」－児童相談所勤務経験から教育と福祉との協働のあり方を探る－</p> <p>15. 「総合的討論」－これまでの学びを振り返る</p> <p>* 講師の都合により日程が変更することがある。</p> <p>* 施設見学は水曜日に実施する。</p>				
受講要件	教育実践高度化専攻2年次の学生				
テキスト	とくに使用しない				
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	ゲストスピーカーによる講話の内容と印象・感想などをまとめておくこと				
成績評価の方法・基準	出席回数、討論への参加状況及び最終レポートにより判断し、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールにて問い合わせ下さい。				
担当教員からのメッセージ	医療・福祉・司法など外部専門機関による、学校教育の論理とは異なった見地からの子ども・保護者支援の考え方と方法をぜひ知っておくとよいと思います。				

授業科目名	夢の学校づくり・学校改善への実践論				
担当教員名	島田 桂吾		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部 A 棟 403	
分担教員名	山崎 保寿、三ツ谷 三善、山口 久芳、洪江 かさね、武井 敦史				
クラス	学校組織	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	学校づくり、教育改革、歴史、教育政策、海外の教育事情、グランドデザイン				
授業の目標	現代日本の教育改革を、①歴史、②海外、の観点から複眼的に学んだ上で、各自なりの「夢の学校づくり」をイメージしたグランドデザインを作成する作業を通じて、これからの学校改善へ向けた実践力を身に付けることを目的とする。				
学習内容	本科目は4パートから構成される。第1パートでは、日本の教育改革の歴史を資料や映像から振り返ることで、現在の教育制度の足跡を確認する。第2パートでは、今後の日本の教育改革の方向性について示唆を得るために、海外の教育事情を反映した映像を通じて検討する。第3パートでは、これまでの知見をふまえて各自が「夢の学校づくり」をイメージするためにグランドデザインを作成、発表する。				
授業計画	<p>【単元】日本の教育改革の歴史から学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育改革の歴史を振り返る 2. 戦前の「学力問題」(映像) 3. 戦後教育改革 4. 教育改革を経験的に振り返る(山口) <p>【単元】海外の教育事情(映像)から学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 成果主義を重視するアメリカ 6. 学校理事会を活用するイギリス 7. 学校を「小さな社会」と捉えるオランダ 8. 異文化共生を目指すフランス 9. 国家を支える人材育成を目指すインド 10. 日本の教育を取り入れるカンボジア <p>【単元】「夢のある学校づくり」に向けて</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. グランドデザインの概要(山口) 12. グランドデザインの作成① 13. グランドデザインの作成② 14. グランドデザインの作成③ 15. グランドデザインの発表 <p><連携教員>山口久芳</p>				
受講要件	教育実践高度化専攻2年生				
テキスト	中谷彪・伊藤良高『歴史の中の教育—教育史年表』(教育開発研究所)、2013年				
参考書	二宮皓『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』(学事出版)、2013年				
予習・復習について	授業の理解を助けるために、論文等を事前に読んでくることを課すこともある				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポートに基づいて、担当教員が合議の上で判断し、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にメールにてアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	大学院で学んだ内容をもとに、子ども一人ひとりが、夢や希望を持って、心身ともに健やかな成長のできる「夢の学校」を構想しましょう。さらなる学校改善を具体で実現できる実践力ある教師を目指しましょう。				

授業科目名	成人の学習の事例と理論				
担当教員名	渋江 かさね		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部 I 棟 104	
分担教員名	武井 敦史				
クラス	学校組織	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード	省察的実践研究、ラウンドテーブル、学びあうコミュニティ、実践記録				
授業の目標	<p>1. 教員として以下①～③を願っての「実践」に取り組んでいく上で必要な力量を形成するとともに、こうした実践を支える理論を理解する。</p> <p>①みずからが「学び続ける教員」であり続ける、同僚が「学び続ける教員」であることを支える。</p> <p>②「個人実践家」ではなく、「学びあうコミュニティを培う実践家」となる。</p> <p>③「学校における組織力の向上」や「学校と地域の連携」に、スクールリーダーとして取り組んでいく。</p> <p>2. 研究のあり方を問い直し、「実践者であり研究者である教師」になるために、省察的実践研究への理解を形成していく。</p> <p>3. 実践を「書く」（記録化する）ことを通して、自らの実践の価値を確認するとともに、その価値が人に伝わるような「書く力」を形成していく。</p>				
学習内容	「学び続ける教員」であり続けるための教員の学びあい、学校を創るための教員の学びあい、省察的実践研究について、みずからの経験、文献・実践記録を基に理解を深めることを、個人学習と共同学習によって進めていきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・イントロダクション 2. 若手教員の資質能力の向上① 3. 若手教員の資質能力の向上② 4. 若手教員の資質能力の向上③ 5. アクションリサーチの問い① 6. アクションリサーチの問い② 7. アクションリサーチの問い③ 8. 教員・大学院生としての実践記録を読む① 9. 教員・大学院生としての実践記録を読む② 10. 教員・大学院生としての実践記録を書く① 11. 教員・大学院生としての実践記録を書く② 12. 教員・大学院生としての実践記録を紹介しあう① 13. 教員・大学院生としての実践記録を紹介しあう② 14. 「学びあうコミュニティ」の展開を支える理論① 15. 「学びあうコミュニティ」の展開を支える理論② <p>※授業計画は受講者や学習の状況に応じて変わることもあります。</p>				
受講要件	とくにありません。				
テキスト	ありません。				
参考書	<p>○エティエンヌ・ウエンガー、リチャード・マクダーモット、ウィリアム・M・スナイダー著、櫻井祐子訳『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』翔泳社、2002。</p> <p>○ドナルド・ショーン、柳沢昌一ほか監訳『省察的実践とは何か——プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房、2007。</p> <p>○渋江かさね『成人教育者の能力開発—P.クラントンの理論と実践』鳳書房、2012。</p> <p>そのほか、授業の中で適宜紹介します。</p>				
予習・復習について	予習：文献を読むことやミニレポートを書くことを、事前におこなってもらうことがあります。				
成績評価の方法・基準	授業中のグループワークへの取り組み、ミニレポート、最終レポートで総合的に評価します。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントをお願いいたします。				
担当教員からのメッセージ	「おとな」の学びとその支援について、一緒に考えていきましょう。みずからの学習を「おとな」の学びとして進めていける力をつけていきましょう。				

授業科目名	特色あるカリキュラム・マネジメントの実践と課題				
担当教員名	武井 敦史		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟412	
分担教員名	三ツ谷 三善、山口 久芳、島田 桂吾、山崎 保寿、渋江 かさね				
クラス	学校組織	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	カリキュラム・マネジメント、教育課程、学習指導要領				
授業の目標	学校の実態に応じた特色あるカリキュラム・マネジメントの在り方を探求する。実習との往還を意図し、リフレクションを通じた内容理解を深める。授業でのディスカッションを重視し、研究文献、実践研究等、幅広く学習する。探求学習・プロジェクト学習も考慮し、課題を設定した実践的・事例的研究を行う。				
学習内容	新学習指導要領については政策分析演習、カリキュラム・マネジメントについては校長経験者（実務家教員）のアドバイス、キャリア教育や特色あるカリキュラム開発については、探求学習またはプロジェクト学習の方法も適宜取り入れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、授業概要の説明 2. 新学習指導要領とコンピテンシー(1) 3. 新学習指導要領とコンピテンシー(2) 4. 新学習指導要領とコンピテンシー(3) 5. カリキュラム・マネジメントの理論と実践(1) 6. カリキュラム・マネジメントの理論と実践(2) 7. カリキュラム・マネジメントの理論と実践(3) 8. カリキュラム・マネジメントの理論と実践(4) 9. 特色あるカリキュラムの事例と分析(1) 10. 特色あるカリキュラムの事例と分析(2) 11. キャリア教育カリキュラムの開発(1) 12. キャリア教育カリキュラムの開発(2) 13. カリキュラム開発演習(1) 14. カリキュラム開発演習(2) 15. カリキュラム開発演習(3) <p>研究者教員（講師）と実務家教員（教授）とが分担する。</p>				
受講要件					
テキスト	刊行文献・研究論文等、授業で指示。				
参考書					
予習・復習について	授業で指示した文献を読む。カリキュラム・マネジメントの事例文献・研究文献を積極的に収集する。				
成績評価の方法・基準	授業態度、レポート作成。				
オフィスアワー	アポイントメントを取った上でいつでも可				
担当教員からのメッセージ	特色あるカリキュラム・マネジメントについて共に探求し、研究的・分析的・プロジェクト的に取り組み、成果をまとめます。				

授業科目名	特別支援教育コーディネーターの理論と実践				
担当教員名	岡本 康哉	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 A棟409		
分担教員名	大塚 玲				
クラス	特別支援	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	特別支援教育コーディネーター、障害者差別解消法、校内委員会、インクルーシブ教育、進路指導、保護者支援、通級指導教室、個別の教育支援計画、教育支援員との連携				
授業の目標	特別支援教育コーディネーターの役割や実際の業務について理解する。特別な教育的ニーズのある児童生徒をチームで支援することや支援計画をたてるための知識や技能等を習得する。また、障害者差別解消法やインクルーシブ教育の理念をどのようにコーディネーターとして取り組んでいくかを考える。				
学習内容	<p>ステップ1：特別支援教育コーディネーターに必要とされるさまざまな基礎知識について講義を中心にして学習する。</p> <p>＜第1回～第5回＞</p> <p>ステップ2：特別支援教育コーディネーターが出会うであろうさまざまな問題に関して、ゲストティーチャーも交えて実践的に検討する。</p> <p>＜第6回～第9回＞</p> <p>ステップ3：特別支援教育コーディネーターとして特別支援教育の構築のための工夫・改善について具体的な攻略を立てる。</p> <p>＜第10回～第15回＞</p>				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 特別支援教育コーディネーターの役割 「年間の動き」「たより」等 ＜提出課題予告＞ *各市町等の個別の教育支援計画 *市町の特別支援教育体制*自校の子どもの課題</p> <p>第2回 障害を巡って（障害観：DSM-5）</p> <p>第3回 障害者差別解消法と基礎的環境整備・合理的配慮</p> <p>第4回 インクルーシブ教育を巡って（調査から見えたこと）</p> <p>第5回 市町の特別支援教育の取り組み（調査から見えたこと）</p> <p>第6回 教育支援員との連携</p> <p>第7回 進路及び高等学校の取り組み</p> <p>第8回 保護者支援の在り方</p> <p>第9回 通級指導教室との連携</p> <p>第10回 個別の教育支援計画の実際（持ち寄りにより比較検討）</p> <p>第11回 実態把握の仕方（チェック表等）</p> <p>第12回 PTA：地域への説明（自校の特別支援教育の啓発）</p> <p>第13回 授業へのアドバイス（ユニバーサルデザインへの指南）</p> <p>第14回 校内委員会の運営シュミレーション①持ち寄り事例から</p> <p>第15回 校内委員会の運営シュミレーション②持ち寄り事例から</p>				
受講要件	なし				
テキスト	テキストは使用しません				
参考書	参考資料は適宜紹介します				
予習・復習について	第10回～第15回では受講生が主体となって授業を進めていってもらう予定です。				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	木曜日				
担当教員からのメッセージ	特別支援教育コーディネーターは校内の特別支援教育の要となる重要な役割です。受講生の皆さんは特別支援教育コーディネーターになったつもりで、その役割や動きについて様々な視点から考えてみましょう。				

授業科目名	発達障害の理解と対応				
担当教員名	香野 毅	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟301		
分担教員名					
クラス	特別支援	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	発達障害、特別支援教育				
授業の目標	幼稚園、保育園、小中学校、高等学校、大学あたりの教育機関が行う特別支援教育について、その取り組みがこれから安定的にかつ創造的に進むことを目指して、その担い手となる先生たちに基盤的な力量の形成の機会を提供したい				
学習内容	発達障害といわれる非典型的な発達をたどる子どもたちについて様々な角度から理解していく その理解をベースに（個別の思いつきでなく）多層的な対応についてヒントとなることを提供していく				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育とは 2. 発達障害の理解 医学的見地から 3. 発達障害の理解 障害別に 4. 発達障害の理解 多面的な観点から 5. 発達障害の理解 家族から 6. 支援を考える 個へ 7. 支援を考える 保護者へ 8. 支援を考える 集団へ 9. 学校組織としての支援 10. 学習面への支援 11. 行動面への支援 12. 心理面への支援 13. 家族に学ぶ 14. 保護者面接 15. まとめ 				
受講要件	特にありません				
テキスト	授業時に資料を配布します				
参考書	必要に応じて紹介します				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	まとめ的なレポートを最後に作成してもらいます				
オフィスアワー	直接かメールか電話にてまずは連絡を				
担当教員からのメッセージ	「いっぱいしゃべるぞ！」という心構えでどうぞ				

授業科目名	学校を動かすミドルリーダーの在り方と実践				
担当教員名	山口 久芳		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟410	
分担教員名	武井 敦史、三ツ谷 三善、島田 桂吾、山崎 保寿、洪江 かさね				
クラス	学校組織	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	教務主任、主幹教諭、教育課程、学校評価、学校経営				
授業の目標	学校運営の要となる主幹教諭や各種主任といったミドルリーダーの在り方や実践について理解する。今後の学校の環境変化とリーダーに期待される役割を念頭に、今後の学校におけるリーダーシップの発揮について理論的・実践的に検討を深める。				
学習内容	学校運営の要としてのミドルリーダーの役割や、位置づけを文献を通して理解するとともに、これからのミドルリーダー像を自ら描く作業を行う。				
授業計画	<p>1 各主任の仕事と位置づけ</p> <p>①ガイダンス（文献の分担作業） 山口</p> <p>②各主任の役割《上 法的な押さえ》 島田</p> <p>③各主任の役割《下 現場での役割》 山口</p> <p>2 文献から見たミドルリーダー像 山口</p> <p>④発表者1 発表に基づいたワークショップ</p> <p>⑤発表者2 発表に基づいたワークショップ</p> <p>⑥発表者3 発表に基づいたワークショップ</p> <p>⑦発表者4 発表に基づいたワークショップ</p> <p>*受講者が4名以上の場合は発表者2名を書く時間に割り振る</p> <p>3 ミドルリーダーのリーダーシップ論 武井</p> <p>⑧リーダーシップ論（1） 文献を読む</p> <p>⑨リーダーシップ論（2） 文献を読む</p> <p>4 これからのミドルリーダー像を描く</p> <p>⑩期待されるミドルリーダー 山口</p> <p>⑪受講生自身のミドルリーダー像をまとめる（A44枚程度 報告書の巻末に添付）</p> <p>⑫受講生自身のミドルリーダー像をまとめる（A44枚程度 報告書の巻末に添付）</p> <p>⑬自身のミドルリーダー像を発表</p> <p>5 まとめ 山口 武井</p> <p>⑭授業評価と講評</p>				
受講要件	学校組織開発領域2年生が受講対象である。				
テキスト	新しい力（浜田）学校づくりの組織論（武井ほか）スクールリーダーシップ（小島ほか）「考える教師」（山崎ほか）次世代スクールリーダーの条件（元兼）4月出版予定（武井）日本教育新聞記事				
参考書					
予習・復習について	テキスト等の読書 プレゼンデータ作成 「これからのミドルリーダー像」の執筆				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポートに基づいて、担当教員が合議の上で判断し、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	随時可能。ただし、事前にアポイントメントを取ること。				
担当教員からのメッセージ	主幹教諭・教務主任の職務を実践的に学ぶことを通じて、学校運営や学校経営の基礎を学び、信頼され、実践力のあるスクールリーダーを目指しましょう。				

授業科目名	障害児臨床の視点と方法				
担当教員名	香野 毅	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟301		
分担教員名					
クラス	特別支援	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	特別支援教育、指導法・指導理論、自立活動、発達支援				
授業の目標	特別支援教育の実践では様々な障害種の子どもたちが持っている多様なニーズにこたえることが求められる。そのひとつには自立活動等を中心とした個別指導があるが、その実践は教員にとって多くの力量が求められることとなる。この授業では昨今の指導法などについてケース検討を通して学び、学校での実践に生かせるようにしていく。				
学習内容	特別支援学校に活かせる指導方法についての講義と受講生からのケース発表および検討を主として進める				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある子どもへの指導概論① 2. 障害のある子どもへの指導概論② 3. 最近の指導法 4. ケース検討 5. ケース検討 6. ケース検討 7. ケース検討 8. ケース検討 9. ケース検討 10. ケース検討 11. 動作法など指導法の演習 12. 動作法など指導法の演習 13. そのほかの指導法 14. ケースを通して 15. まとめ 				
受講要件	特別支援教育に感心のあるもの				
テキスト	授業の際に指定				
参考書	授業の際に指定				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業での活動状況 レポート				
オフィスアワー	授業の際にアポを取ってください				
担当教員からのメッセージ	特別支援教育は幅広い領域に関係しています 「広め」にやりたいと思います				

授業科目名	基盤実習				
担当教員名	三ツ谷 三善		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟402	
分担教員名	山崎 保寿、武井 敦史、山口 久芳、渋谷 かなね、島田 桂吾、石上 靖芳、村山 功、原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲、大塚 玲、岡本 康哉				
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分
対象学年	1年	単位数	3	曜日・時限	集中
キーワード	共通科目との往還、実践的指導力の基礎、学校組織開発、教育方法開発、生徒指導支援、特別支援教育それぞれの視点				
授業の目標	「共通科目」との往還を図りつつ、学校組織開発、教育方法開発、生徒指導支援及び特別支援教育各領域に関わる視点に基づいて、高度な実践的指導力形成の基礎となる知識・考え方を身に付ける。				
学習内容	高度な実践的指導力の基礎部分を構成する知識・考え方を習得するために、受講生全員が共通に履修する分として各4領域から提供された見学型及び参加型実習を60時間分宛てる。さらに、各4領域のより進んだ学修につなげるための見学型及び参加型実習を30時間分実施する。本実習における体験と「共通科目」との往還を図ることで、学習内容の定着を図る。				
授業計画	教育実践高度化専攻のガイダンス時に説明する。				
受講要件	教育実践高度化専攻1年次生に限る。				
テキスト	特に無し。				
参考書	特に無し。				
予習・復習について	「共通科目」との往還が想定されていたり、事後報告書の提出が求められることもあるために、事実上予習・復習が実行されることになる。				
成績評価の方法・基準	積極的な取り組み姿勢や事後報告書の内容などを手がかりとして各領域で評価し、専攻として承認する。				
オフィスアワー	各教員による。なお教員と大学院生とで対話を行う「領域別振り返り会」が設定されている。				
担当教員からのメッセージ	本実習を機に、これまでの教師像や子ども観、授業観などを振り返るとともに、視野の拡大・視点の転換を心がけたい。				

授業科目名	授業と学習の新たな展開				
担当教員名	村山 功		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部L棟205	
分担教員名	石上 靖芳、河崎 美保、山城 拓也、長崎 栄三				
クラス	教育方法	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	授業計画、単元構想、授業案、学習目標、学習課題、学習活動、行動目標、評価				
授業の目標	<p>授業計画に不可欠な構成要素と、構成要素間の関係を理解する。 学習指導要領に基づいて適切な学習目標を立てることができるようになる。 授業計画を効果的に分析・検討するためのチェックポイントを知る。 授業計画をスムーズに授業化するための工夫を理解する。 単元内容に研修テーマを反映し、授業に具体化する方法を学ぶ。</p>				
学習内容	<p>実習校での授業実践を核として、「目指すべき学力とその評価」、「授業と学習のメカニズム」、「授業形態の特質と選択」で学んだ内容を活用しながら、単元内容に校内研修のテーマを反映させた授業を構想し、授業計画として具体化する方法を学ぶ。</p> <p>【実習との連携】 「領域別実習」もしくは「教育実践高度化実習」において実施する授業実践の授業計画を立てる。</p>				
授業計画	<p>【授業計画の基本構造】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画の構成要素 — 核となるプラン 2. 学習指導要領に基づく学習目標の設定 3. 評価と指導の一体化 — つなぐプラン 4. 授業計画分析シートとチェックリスト <p>【研修テーマの具体化】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 小集団活動を活用する 6. 子供をみとる場面を作る <p>【授業案検討】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 授業案の構想1 8. 授業案の構想2 9. 授業案の事前検討1 10. 授業案の事前検討2 11. 評価基準と評価手段の確認 <p>【授業分析】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 授業分析1 13. 授業分析2 14. 分析結果の発表 15. 授業案の再検討と得られた知見の確認 <p>【教員間の連携】 主担当教員・分担教員が全回数を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。 <主担当教員> ・講義内容の準備と解説を行うとともに、議論とグループワークの進行を担当する。 <分担教員> ・異なる専門あるいは実務家の視点から、講義中の議論へ参加するとともに、グループワークの指導・支援を行う。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	メールでアポイントメントをとること				
担当教員からのメッセージ	授業計画とは授業前の教師の意志決定であり、これを明確に記述することが授業の力量向上や効果的な校内研修につながる。いい授業を作る仕組みを、みんなで考えていきたい。				

授業科目名	授業分析と校内研修の新たな展開				
担当教員名	石上 靖芳		所属等	大学院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟408	
分担教員名	村山 功、河崎 美保、山城 拓也、益川 弘如				
クラス	教育方法	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修のもつ今日的意義や普遍的価値について理解する。 ・授業改善を基盤とする校内研修におけるテーマ設定・方法論・推進体制・評価方法等の方略について学ぶ。 ・事例検討から在任校の校内研修の状況を相対化し改善策を立案することができる。 				
学習内容	<p>校内研修において、学校が抱える課題の解決に向かって、教職員が共同的・組織的に、授業等の教育実践を計画・実施・評価する営みが適切に実施されることにより、教師が専門性を高め、力量を高めることが可能となる。本授業においては、最初に校内研修のもつ今日的意義や普遍的価値について検討する。次に、授業研究を中核に位置づけた校内研修の実施に関して、テーマ設定・方法論・推進体制・評価方法等について取り扱い、具体的な方略について取り扱う。続いて、全国レベルで校内研修の実績のある小学校・中学校の事例を取り扱い、分析と検討を行う。また、現職大学院生の在籍校の校内研修の現状分析をリサーチ・検討を行うことで校内研修の価値の相対化を図り、課題の把握、改善の方向を確認していく。授業と平行して学校実習が同時に実施されるので実習先の校内研修の分析も併せて取り扱うことで質的な充実を図る。</p> <p>【実習との連携】 「領域別実習」で訪問する連携協力校の校内研修に関する検討を本授業の一部に取り入れる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校研究の価値と今日的意義 2. 「校内研究」と教師の力量形成 3. 学校研究の歴史 4. 学校研究の現状－その今日的テーマ・方法論・推進体制 5. 学校研究の企画・運営・評価 6. 学校研究の成立と充実の要件 7. 学力調査の実施と学校研究の発展 8. 学校研究のすぐれた事例の検討① PISA型学力の工場を目指した研修校に学ぶ 9. 学校研究のすぐれた事例の検討② 職員の対話を基盤にした研修校に学ぶ 10. 学校研究のすぐれた事例の検討③ 学びの共同体を標榜する研修校に学ぶ 11. 連携協力校校内研修の検討① 12. 連携協力校校内研修の検討② 13. GTA（質的分析方法）を用いて研修活性化要因の分析① 14. GTA（質的分析方法）を用いて研修活性化要因の分析② 15. GTA（質的分析方法）を用いて研修活性化要因の分析③ <p>【教員間の連携】 主担当教員・分担教員が全回数を共同担当するが、具体的役割は以下の通りである。 <主担当教員> 講義内容の準備と開設を行うとともに、議論とグループワークの進行を担当する。 <分担教員> 教授・学習理論や授業研究者の視点から、講義中の議論へ参加するとともに、グループワークの指導・支援を行う。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する。				
参考書	なし				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	特に設定しないが、必要に応じて随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	校内研修をはじめとする学校研究の意義を問い直し、その効果的な推進方法や方略を一緒に検討していきましょう。				

授業科目名	特別支援教育のシステムと方法				
担当教員名	大塚 玲	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟302		
分担教員名	岡本 康哉				
クラス	高度	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	特別支援教育、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、就学支援、インクルーシブ教育システム				
授業の目標	<p>①特別支援教育の制度や仕組みに関する基本的な事項を理解する。</p> <p>②特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の制度や対象とする児童生徒、教育の実際について理解する。</p> <p>③インクルーシブ教育システムや合理的配慮など特別支援教育に関わる今日的な課題について理解する。</p>				
学習内容	特別支援教育に関する法律や制度的な仕組みに関する基本的な内容を学習します。そのうえで、特別支援学校や特別支援学級、通級による指導などの教育の実際やその特色について学びます。さらにインクルーシブ教育システムや合理的配慮など特別支援教育に関わる今日的な課題について学習します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス、障害の定義・表記 2.特別支援教育の仕組み 3.就学支援 4.小・中学校における特別支援教育の仕組み 5.特別支援学級の教育の実際と課題 6.特別支援学校の教育の実際と課題 7.通級による指導の実際と課題 8.基盤実習の振り返り 9.ユニバーサルデザインの授業 10.障害者権利条約とインクルーシブ教育 11.障害者差別解消法と合理的配慮 12.高校における特別支援教育 13.大学における特別支援教育 14.専門機関との連携 15.静岡県における特別支援教育の特色と課題 				
受講要件	なし				
テキスト	『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門』,大塚玲編著,萌文書林,2015,978-4-89347-200-7				
参考書	必要に応じて紹介する				
予習・復習について	事前に学習内容を提示し予習を促す。				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	火曜日の9時～12時				
担当教員からのメッセージ	教員として最低限身につけておいてほしい特別支援教育に関する基本的知識を学びます。今、特別支援教育はインクルーシブ教育システムの構築に向けて大きく動き出しています。できるだけ最新の情報をお伝えし、受講生の皆さんと一緒に特別支援教育の現在と未来について考えていきたいと思っております。				

授業科目名	学校に応じた教育実践の評価				
担当教員名	石上 靖芳	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部A棟408		
分担教員名	村山 功、山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	後期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	アクションリサーチ、質的研究、量的研究、データ分析				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次で各学校において取り組んでいるアクションリサーチについて、収集したデータを整理・分析し、検討を通して深めていく。 ・成果報告書作成へ向け、文書構成、論点の明確化を図っていく。 				
学習内容	2年次で各学校において取り組んでいるアクションリサーチに関して、参与観察、インタビュー方法、アンケート方法等のデータ収集の方法について検討する。また、収集したデータに関して、質的分析、量的分析等の方法論について学習する。先行研究等のレビュー等についても、成果報告書の作成において必要になるため取り扱う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクションリサーチにおける主題設定① 2. アクションリサーチにおける主題設定② 3. アクションリサーチにおけるデータの収集方法（参与観察）① 4. アクションリサーチにおけるデータの収集方法（インタビュー方法）② 5. アクションリサーチにおけるデータの収集方法（質問紙調査の方法）③ 6. データの分析方法 質的研究（M-G T A） 7. データの分析方法 質的研究（発話分析）① 8. データの分析方法 質的研究（発話分析）② 9. データの分析方法 質的研究（統計処理）① 10. データの分析方法 量的研究（統計処理）② 11. アクションリサーチの報告① 12. アクションリサーチの報告② 13. アクションリサーチの報告③ 14. アクションリサーチの報告④ 15. まとめ 				
受講要件	教育方法開発領域に所属する2年生のみ受講可能				
テキスト	必要に応じて、指定または配布する				
参考書	必要に応じて、指定または配布する				
予習・復習について	ゼミ形式で実施する場合が多いので、資料等を作成して授業に参加すること				
成績評価の方法・基準	授業中の活動及びレポート				
オフィスアワー	特に設定しないが、必要に応じて随時受け付ける				
担当教員からのメッセージ	質の高い成果報告書を作成するために、多めに議論し主題やテーマに迫っていきましょう。				

授業科目名	教材作成と授業形態				
担当教員名	村山 功	所属等	学術院教育学領域		
		研究室	教育学部L棟205		
分担教員名	山城 拓也				
クラス	教育方法	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木5・6
キーワード	教材、学習目標、授業計画				
授業の目標	教材とその作成について理論的な理解を得るとともに、様々な教授方法における教材の性質を理解する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に関する基本的な理解 ・[道徳] モラル・ジレンマ授業における教材 ・[理科] 仮説実験授業における教材 ・[国語] 分析批評と教材研究 ・[共通] ジグソー学習法における教材 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材とは何か 2. [道徳1] モラル・ジレンマ授業とその教材 3. [道徳2] モラル・ジレンマ授業への批判 4. [理科1] 仮説実験授業と授業書 5. [理科2] 科学的思考を育てるための授業 6. [国語1] 分析批評と教材分析 7. [国語2] 分析批評の批判と教材分析 8. [共通] 知識構成型ジグソー学習法とその変形 9. [共通] 操作活動のための教材、小集団活動のための教材 10. [共通] ICTを用いた教材 11. [演習] Problem-based Learning ; 情報教育特別研究と合同開催 12. [演習] Problem-based Learning ; 情報教育特別研究と合同開催 13. [演習] Problem-based Learning ; 情報教育特別研究と合同開催 14. [演習] Problem-based Learning ; 情報教育特別研究と合同開催 15. [演習] Problem-based Learning ; 情報教育特別研究と合同開催 				
受講要件	特になし				
テキスト	必要に応じて資料を配付する。				
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	最終テストに加え、小テストやグループ活動への貢献度を評価する。				
オフィスアワー	事前にメールで予約すること。				
担当教員からのメッセージ	主体的・対話的で深い学びを実現する授業に迫っていきます。				

授業科目名	特別支援教育課題研究				
担当教員名	大塚 玲	所属等	学院院教育学領域		
		研究室	教育学部K棟302		
分担教員名	岡本 康哉				
クラス	特別支援	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育システム、研究法				
授業の目標	領域別振り返りを中心に、研究成果報告書の内容を視野に入れた課題研究に取り組む。課題研究に関する基礎的研究方法を身に付けるとともに、テーマ設定、先行研究・先行事例の把握、テーマの背景にある教育政策等の動向、学校現場の現状等について精査し、課題研究の成果をまとめる。				
学習内容	①課題研究に関する基礎的研究方法の習得 ②テーマの絞り込みと先行研究・先行事例の把握 ③テーマの背景にある教育政策等の動向、学校現場の現状等に関する精査・報告 ④先進事例の視察 ⑤関連文献の収集と読解				
授業計画	1.テーマ設定の検討 2.先行研究の検討① 3.先行研究の検討② 4.研究計画の策定① 5.研究計画の策定② 6.構想発表会の準備 7.構想発表会でのプレゼンテーション 8.データの整理① 9.データの整理② 10.データの分析① 11.データの分析② 12.成果報告書の執筆① 13.成果報告書の執筆② 14.成果報告会のプレゼンテーション準備 15.成果報告会でのプレゼンテーション				
受講要件	教育実践高度化専攻特別支援教育領域に所属する2年生				
テキスト	特に指定しない				
参考書	適宜、紹介する				
予習・復習について	事前に割り当てられた課題についてレポートをまとめてくること				
成績評価の方法・基準	学習内容の欄に示した事項に関する取組状況に対して、深め方、まとめ方、発表の仕方等の観点から成果を評価する。				
オフィスアワー	火曜日 5コマ目				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	教職キャリア基礎 I				
担当教員名	三ツ谷 三善		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部A棟402	
分担教員名	山崎 保寿、武井 敦史、山口 久芳、渋谷 かさね、島田 桂吾、石上 靖芳、村山 功、原田 唯司、鈴木 秀志、伊藤 公介、伊田 勝憲、大塚 玲、岡本 康哉				
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分 選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	集中
キーワード	生徒指導、教育相談、道徳教育、特別活動				
授業の目標	<p>【学卒大学院生を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・教育相談・道徳教育・特別活動等について、初任者教員に必要な知識を得る。 教員としての心構えを養う。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の意義を理解し、子どもや保護者に接する際の基本的な態度を習得する。 子どもや保護者への接し方に関する、基礎的な知識、技術を習得する。 小・中学校における道徳教育の役割や基本的な事項について理解を深める。 小・中学校における特別活動の在り方や基本的な内容について理解を深める。 よりよい指導の在り方を検討するために、学級経営案及び道徳年間指導計画案を作成する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「生徒指導」とは 生徒指導の事例を基にした検討（静岡県総合教育センター指導主事による講義・演習） 「生徒指導の現状と課題」 「教育相談」とは 教育相談の事例を基にした検討（静岡県総合教育センター指導主事による講義・演習） 「教育相談の現状と課題」 「道徳教育」とは 道徳教育の事例を基にした検討（静岡県総合教育センター指導主事による講義・演習） 「道徳教育の現状と課題」 「特別活動」とは 特別活動の事例を基にした検討（静岡県総合教育センター指導主事による講義・演習） 「特別活動の現状と課題」 生徒指導・教育相談に関する協議 道徳教育・特別活動に関する協議 全体のまとめ 				
受講要件	学卒大学院生				
テキスト	「平成29年度 初任者研修資料」（静岡県教育委員会）				
参考書	適宜指示する				
予習・復習について	適宜指示する				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、「静岡県初任者研修協働実施プログラム（小・中学校用）」に対応しています。また、後期の「領域別実習」とも関連があるため、学卒大学院生（ストレートマスター）のみ履修できます。 				

授業科目名	教職キャリア基礎Ⅱ				
担当教員名	(平成30年度開講のため担当者未定)		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	高度	学期	通年		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	選択
キーワード	教職キャリアデザイン、初任者研修資料				
授業の目標	<p>【ストレートマスターを対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者教員にとって必要な幅広い知識を得る。 ・教員としての心構えを養う。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県総合教育センターの初任者研修の第3回のうち、第1日目と第2日目に参加する。 ・「平成30年度 初任者研修資料」の第1章・第2章で示された項目について講読を行うとともに、グループ協議を通じて内容の理解を深める。 				
授業計画	<p>1 ガイダンス (静岡大学教職大学院) 2～9 (8?1.5時間=12時間) ←①～⑩で11時間、⑪で1時間</p> <p>① 生涯学習と学校教育 (静岡県総合教育センター指導主事) ② 特別支援教育 (静岡県総合教育センター指導主事) ③ ソーシャルスキル (静岡県総合教育センター指導主事) ④ 外国語活動(小学校)・部活動(中学校) (静岡県総合教育センター指導主事) ⑤ メンタルヘルス (静岡県総合教育センター指導主事) ⑥ 教育の情報化 (静岡県総合教育センター指導主事) ⑦ 総合的な学習の時間 (静岡県総合教育センター指導主事) ⑧ 人権教育 (静岡県総合教育センター指導主事) ⑨ 学級経営 (静岡県総合教育センター指導主事) ⑩ 学校行事の組織運営 (静岡県総合教育センター指導主事) ⑪ まとめ (静岡大学教職大学院)</p> <p>10 教育課程と学習指導要領 (学校組織開発領域) 11 健康安全教育 (特別支援教育領域) 12 国際理解教育 (教育方法開発領域) 13 キャリア教育 (生徒指導支援領域) 14 防災教育 (学校組織開発領域) 15 全体のまとめ (静岡大学教職大学院)</p>				
受講要件	原則として、「教職キャリア基礎Ⅰ」を履修した者				
テキスト	「平成30年度 初任者研修資料」(静岡県教育委員会)				
参考書	なし				
予習・復習について	適宜指示する				
成績評価の方法・基準	授業中の活動とレポート内容に基づいて、担当教員の合議の上、S～Dで判定する。				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、「静岡県初任者研修協働実施プログラム(小・中学校用)」に対応しています。また、後期の「領域別実習」とも関連があるため、学卒大学院生(ストレートマスター)のみ履修できます。 				